

牛乳・乳製品

- 従来、輸入数量制限を適用していたバター、脱脂粉乳等の主要乳製品については、ウルグアイ・ラウンド合意を受けて、平成7年(1995年)度から全て関税化。
- ① 関税化した乳製品については、基準期間の輸入実績等を基に、現行アクセス数量として、
「国家貿易枠」及び「民間貿易の関税割当枠」を設定。枠内税率は低水準の関税(一次税率)を適用。
- ② 枠外輸入については、高水準の関税(二次税率)を適用。
- ウルグアイ・ラウンド前から自由化されていたチーズ等は、20～40%程度の関税水準。

【生産量】

国内生乳生産量		主な生産地(2018年度)		
7,282千 [㍓] (生産量シェア)		北海道 (54%)	関東 (14%)	九州 (9%)
飲用牛乳等向け	4,006千 [㍓]	関東 (31%)	北海道 (14%)	近畿 (11%)
脱脂粉乳・バター等向け	1,484千 [㍓]	北海道 (86%)	関東 (5%)	九州 (4%)
生クリーム等向け	1,320千 [㍓]	北海道 (93%)	関東 (2%)	九州 (2%)
チーズ向け	423千 [㍓]	北海道 (99%)	東北 (0.5%)	九州 (0.3%)

(注) 国内生産量の内訳は、指定団体への販売実績等であり、生産量合計とは合致しない
出典：牛乳乳製品統計等

【輸入量】

輸入量※1		主な輸入先(2017年-2018年平均)		
4,973千 [㍓] (輸入量シェア)		EU (29%)	豪州 (25%)	NZ (21%)
脱脂粉乳	154千 [㍓]	NZ (37%)	EU (24%)	豪州 (22%)
バター等	150千 [㍓]	NZ (54%)	EU (39%)	米国 (2%)
ホエイ※2	166千 [㍓]	EU (46%)	豪州 (16%)	米国 (12%)
チーズ	3,520千 [㍓]	EU (34%)	豪州 (30%)	NZ (22%)

(注) ※1 数量は、生乳換算ベース

※2 ホエイとはチーズの副産物。(生乳からカード(チーズ)を取り除いて残った液を乾燥させたもの)
出典：貿易統計

【価格】

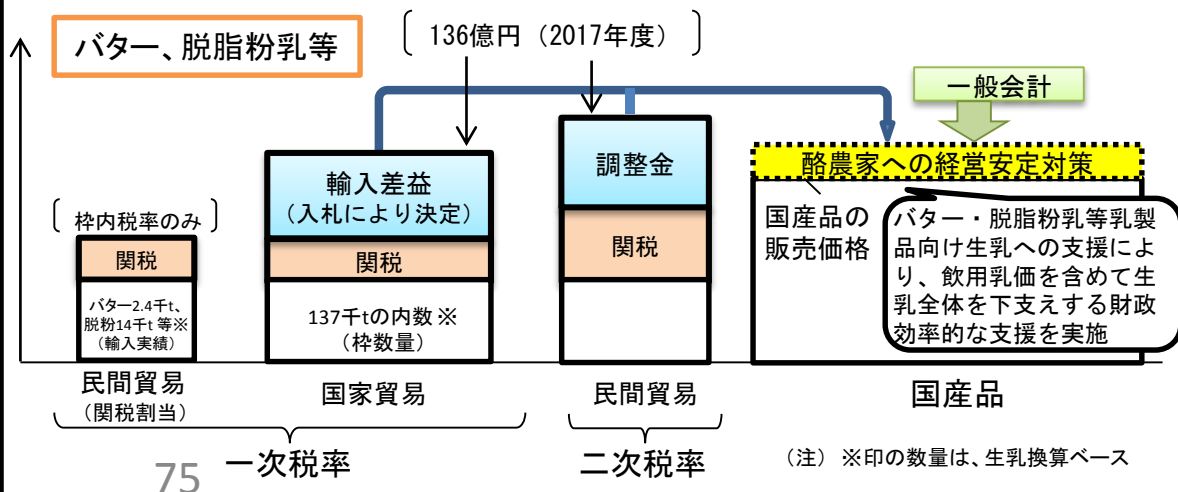
価格の推移(円/kg)						
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
国内価格	脱脂粉乳	619	650	650	663	665
	バター	1,208	1,268	1,254	1,272	1,286
国際価格	脱脂粉乳	426	324	275	257	233
	バター	464	434	384	649	629

国内価格：牛乳乳製品課調べ(税抜き価格)

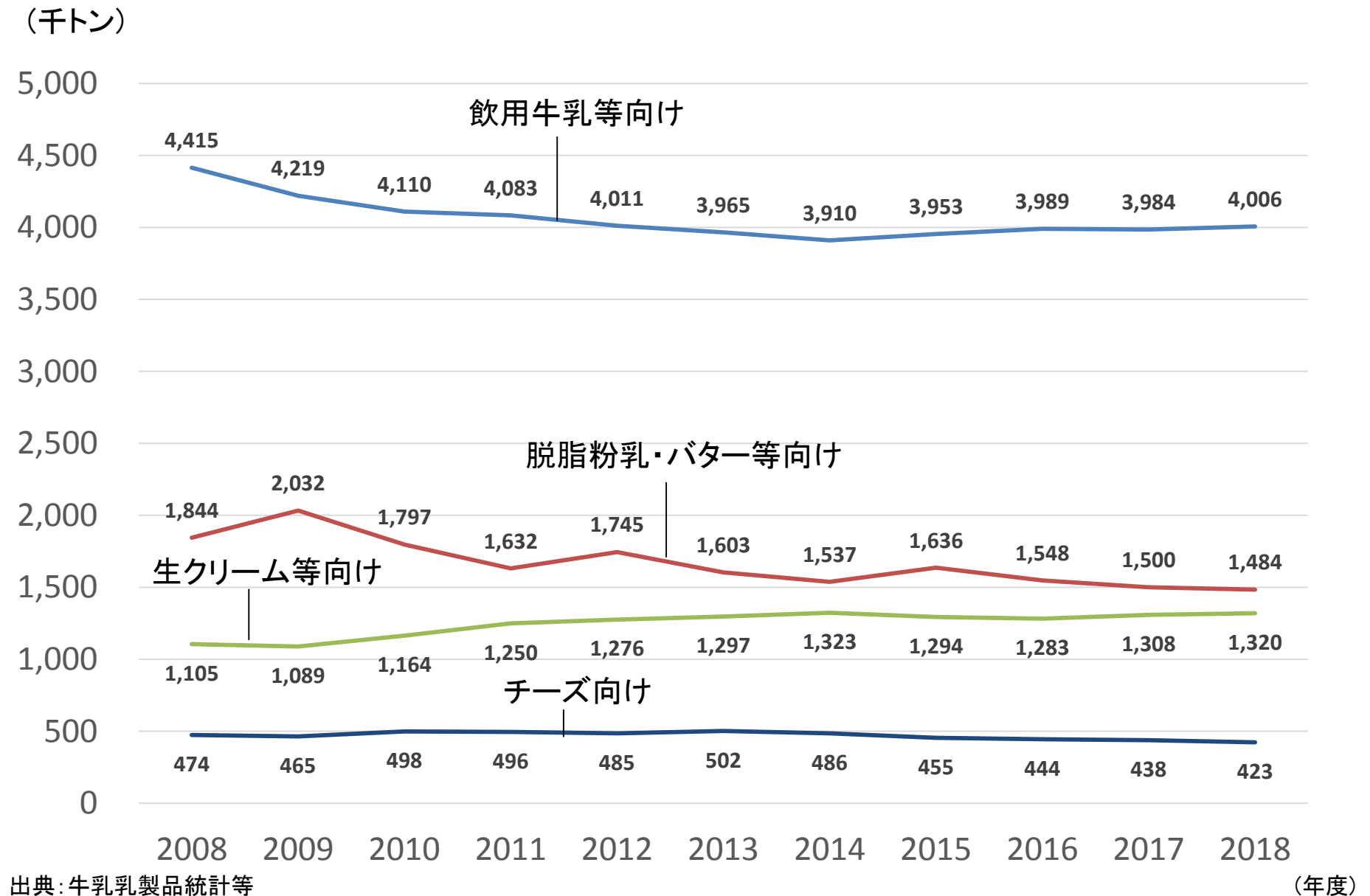
国際価格：CIF価格(貿易統計における平均単価)

【国境措置】

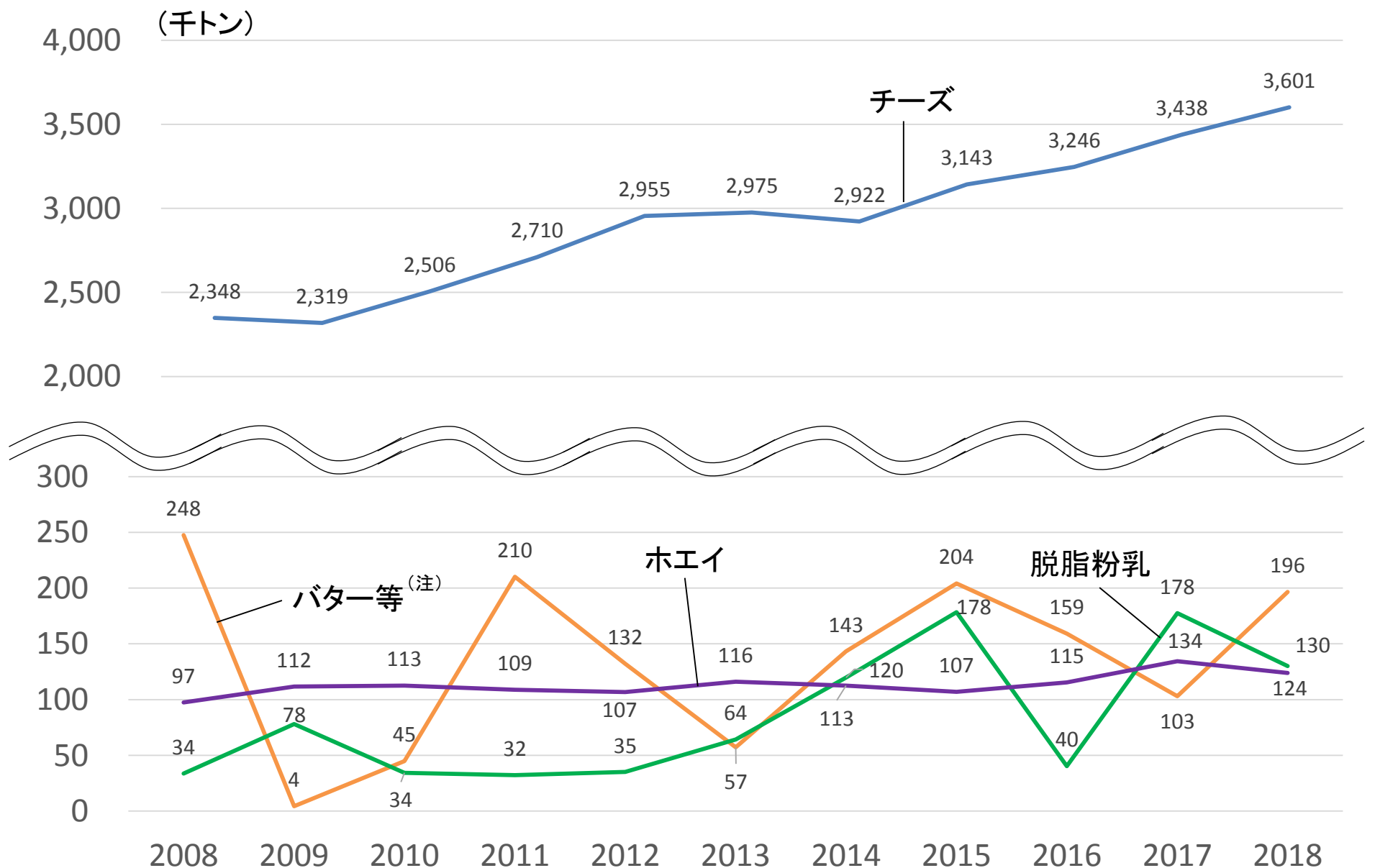
品目	関税率(輸入差益の上限値、調整金含む)						国境措置の概要
	一次税率	関税	輸入差益	二次税率(a)	関税(b)	調整金	
バター	国家貿易	35%	上限806円/kg 上限949円/kg	29.8%+985円/kg 29.8%+1,159円/kg	36%+290円/kg	(a)-(b)	主要乳製品について、関税割当制度及び国家貿易制度により国内需給への影響を緩和
	民間貿易 (関税割当)	35%	-	-	-	-	
脱脂粉乳	国家貿易	25%、35%	上限304円/kg 上限326円/kg	425円/kg(学校給食用等) 396円/kg(学校給食用等)	26%+130円/kg 36%+130円/kg	(a)-(b)	
	民間貿易 (関税割当)	無税、 25%、35%	-	21.3%+396円/kg 29.8%+425円/kg 等	-	-	
ホエイ	国家貿易	25%、35%	上限326円/kg 上限552円/kg	29.8%+425円/kg 29.8%+687円/kg	35%+120円/kg	(a)-(b)	
	民間貿易 (関税割当)	無税、10%、 25%、35%	-	-	-	-	
乳製品 調製品	民間貿易 (関税割当)	12%～35%	-	29.8%+396円/kg 29.8%+1,159円/kg 等	29.8%+396円/kg 29.8%+1,159円/kg 等	-	プロセスチーズ原料用として、 国産チーズ1に対し2.5の割合で の輸入を条件とすることで、国 内需要への影響を緩和
チーズ	国産との抱合せを条件に無税		29.8%		29.8%	-	



生乳生産量の推移



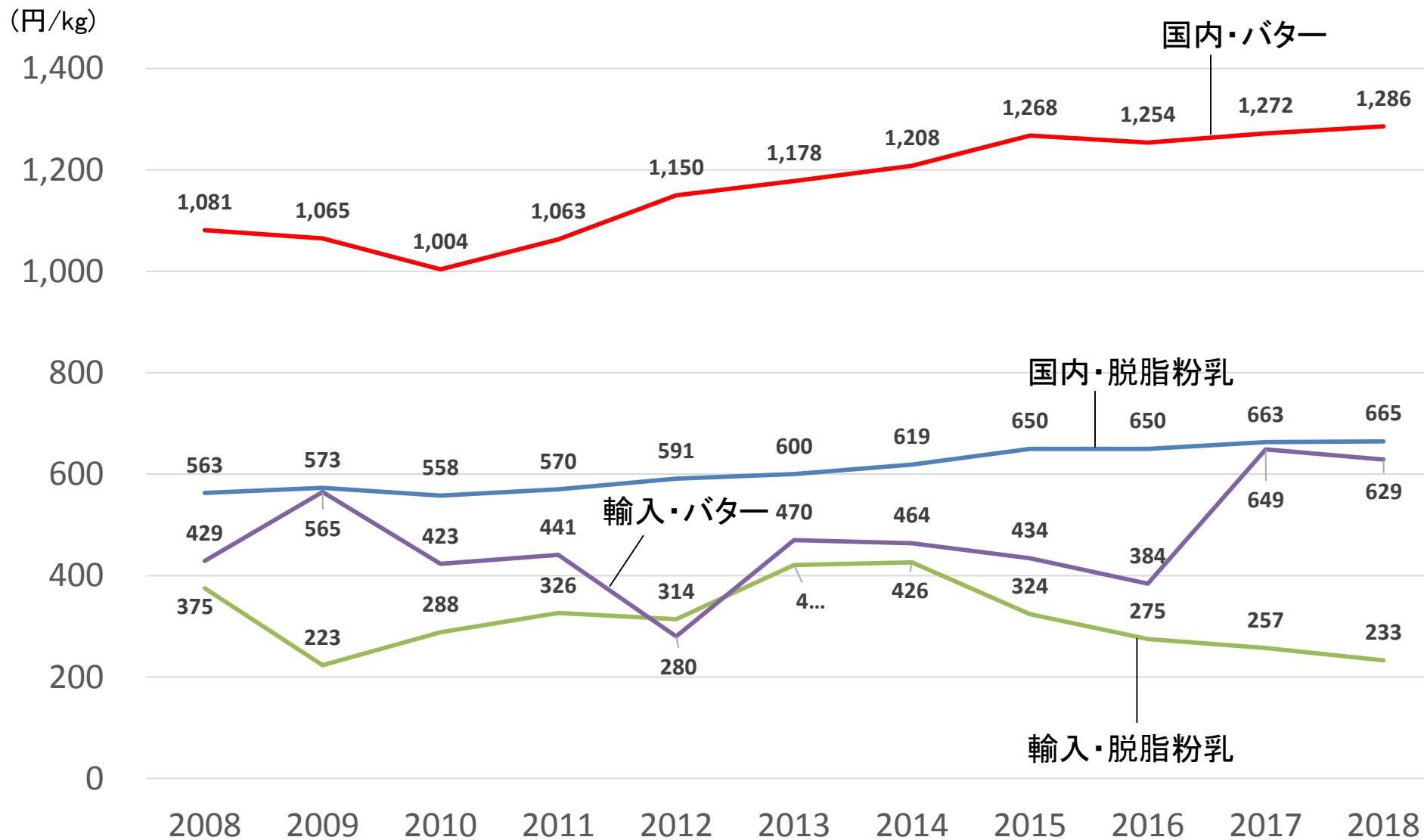
乳製品の輸入量の推移



※数量は、生乳換算ベース
 (注) バター等には、バター、バターオイル、デリースプレッドが含まれる。

出典：財務省貿易統計

乳製品の価格の推移

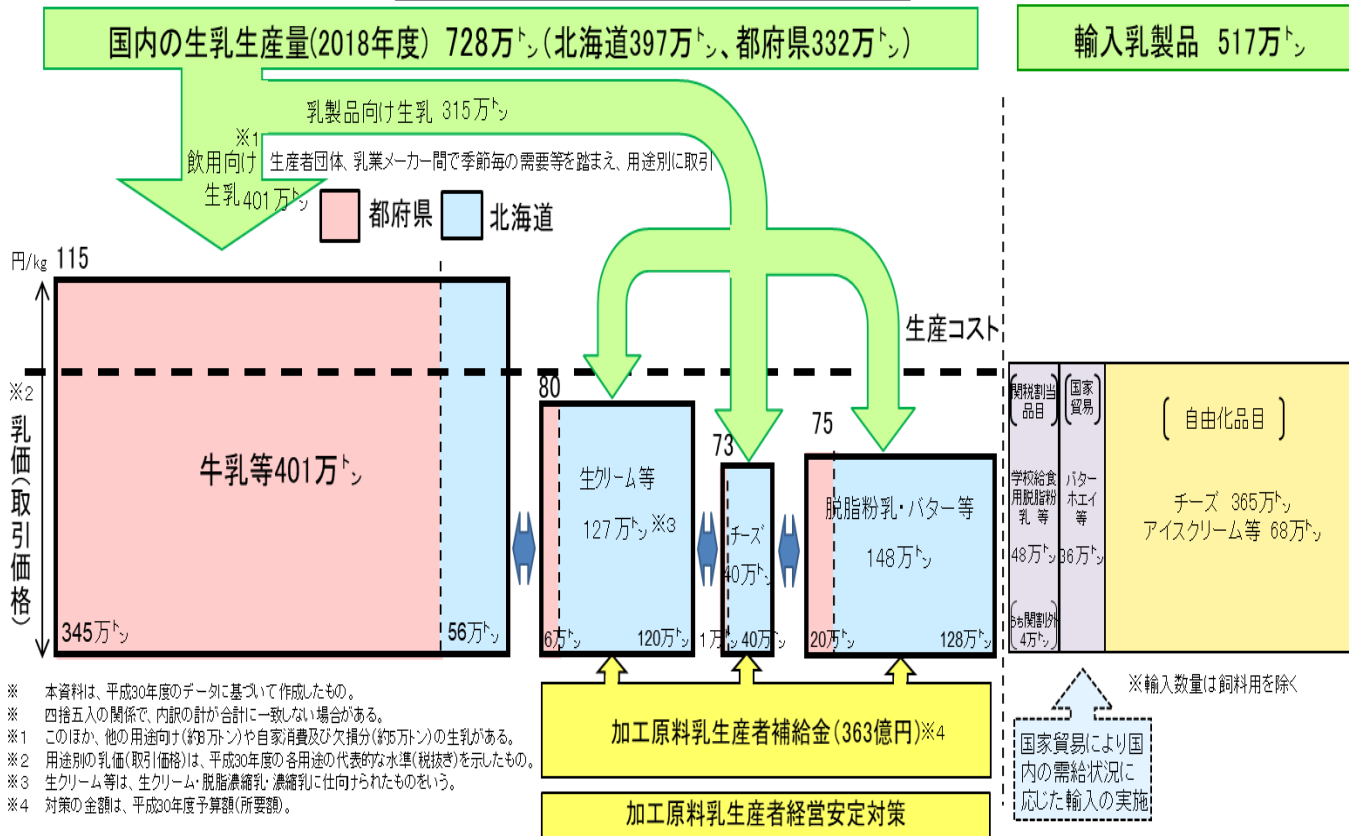


※輸入価格は、CIF価格(財務省貿易統計における平均単価)
国内価格は税抜き価格

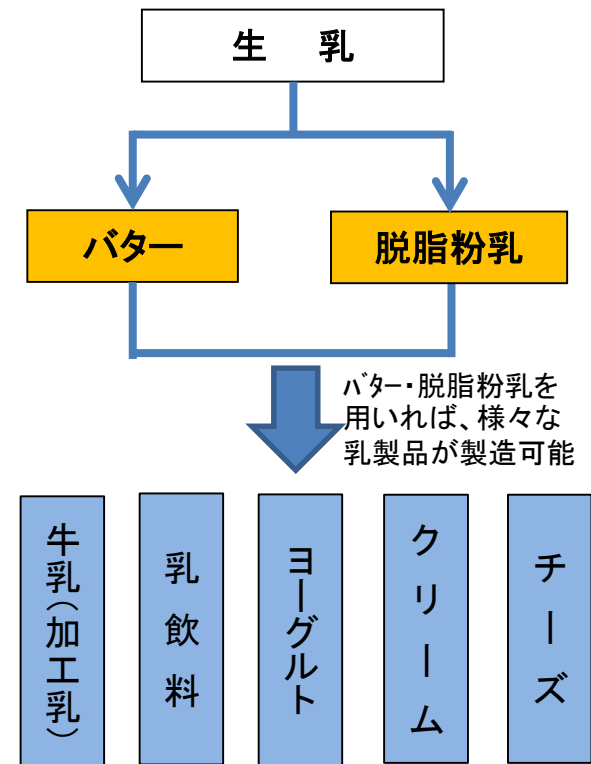
生乳需給の構造

- 生乳は、毎日生産され、腐敗しやすく貯蔵性がない液体であることから、需要に応じ飲用向けと乳製品向けの仕向けを調整することが不可欠。
- 輸入品と競合しない飲用向け生乳(都府県中心)は、価格が生産コストを上回っており、需要に応じた生産による需給安定が課題。
- 乳製品は、保存が利き、飲用と乳製品向け(北海道中心)の生乳量を調整する役割を果たしているが、輸入品と競合。
- 現行の制度は、乳製品向け生乳に対象を絞り、交付対象数量を設けて補給金等を交付することにより、生乳需給全体の安定を図り、全国の酪農家の経営安定を図っている。

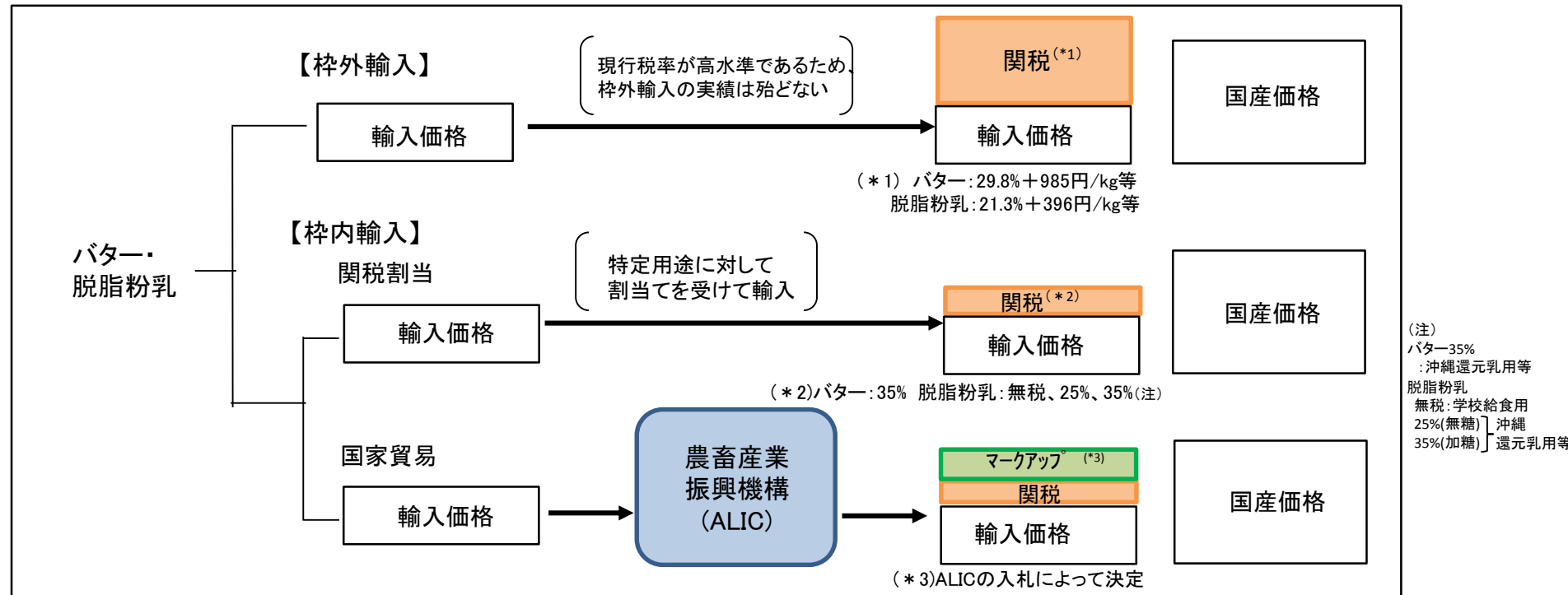
生乳需給の構造



バター・脱脂粉乳の可逆性



バター・脱脂粉乳の輸入制度



バター・脱脂粉乳等の国内生産量・輸入量(生乳換算)

(単位: 万トン)

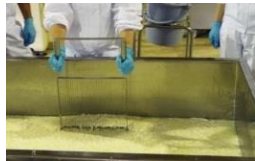
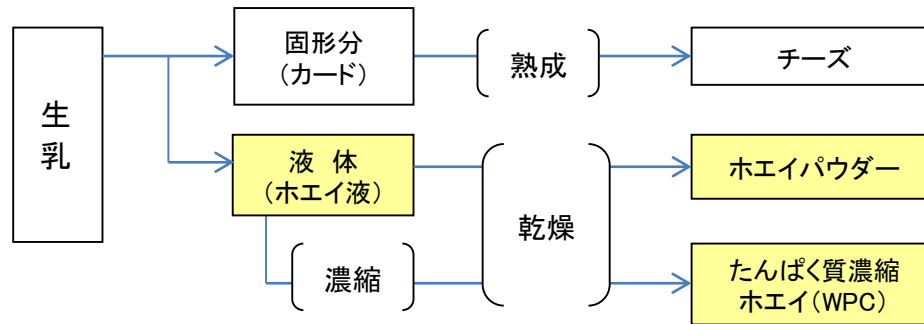
国内生産量 (※1)	輸入量(国家貿易)												
		2015年度				2016年度				2017年度			
		カレントアクセス(※2)		追加輸入(※3)		カレントアクセス(※2)		追加輸入(※3)		カレントアクセス(※2)		追加輸入(※3)	
(2015年度) 163. 6万トン (2016年度) 154. 8万トン (2017年度) 150. 0万トン	TPP参加国	総計	5.8	総計	10.9	総計	4.8	総計	8.0	総計	3.8	総計	16.5
		NZ	3.3	NZ	10.4	NZ	4.4	NZ	7.8	NZ	2.4	NZ	13.1
		豪州	2.5	豪州	0.5	豪州	0.4	豪州	0.2	豪州	1.4	豪州	3.4
	EU	総計	4.5	総計	3.4	総計	5.4	総計	5.2	総計	4.1	総計	8.7
		ドイツ	1.3	オランダ	1.1	オランダ	2.7	オランダ	2.9	ベルギー	2.8	オランダ	3.4
		オランダ	1.2	ドイツ	0.9	ドイツ	2.3	ドイツ	1	オランダ	0.4	ドイツ	1.9
		ベルギー	1.1	ベルギー	0.7	フランス	0.3	フランス	0.6	ドイツ	0.4	フランス	1.8
		フィンランド	0.4	フィンランド	0.3	ベルギー	0.1	ベルギー	0.6	フランス	0.2	ベルギー	1.5
	米国		0.3		0.6		0.1		0.0		1.2		2.7
	その他		0.02		0.7		0.2		0.2		0.01		0.3
	小計		10.6		15.6		10.6		13.4		9.1		28.2
	年度計		26.2				24.0				37.3		

注: 輸入量はALICの契約ベース ※1: バター・脱脂粉乳等向け国内生産量 ※2: WTO約束数量 ※3: バター・脱脂粉乳の不足時に行われる追加的な輸入

ホエイとは

- ホエイは、チーズ製造の際に発生する副産物。原材料として食品に活用。
- また、ホエイの中には、乳たんぱく質を濃縮させた、たんぱく質濃縮ホエイ(WPC)という製品も存在。

〔ホエイの生成過程〕



牛乳を凝固



固形分と液体を
分離

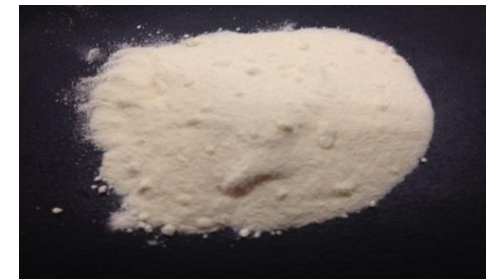
〔ホエイの国内生産量〕

2万トン（出典：牛乳乳製品統計（2017年度））

〔主な用途〕

乳飲料、パン、菓子、デザート等、育児用調製粉乳、
プロテイン等栄養食品 等

ホエイパウダー



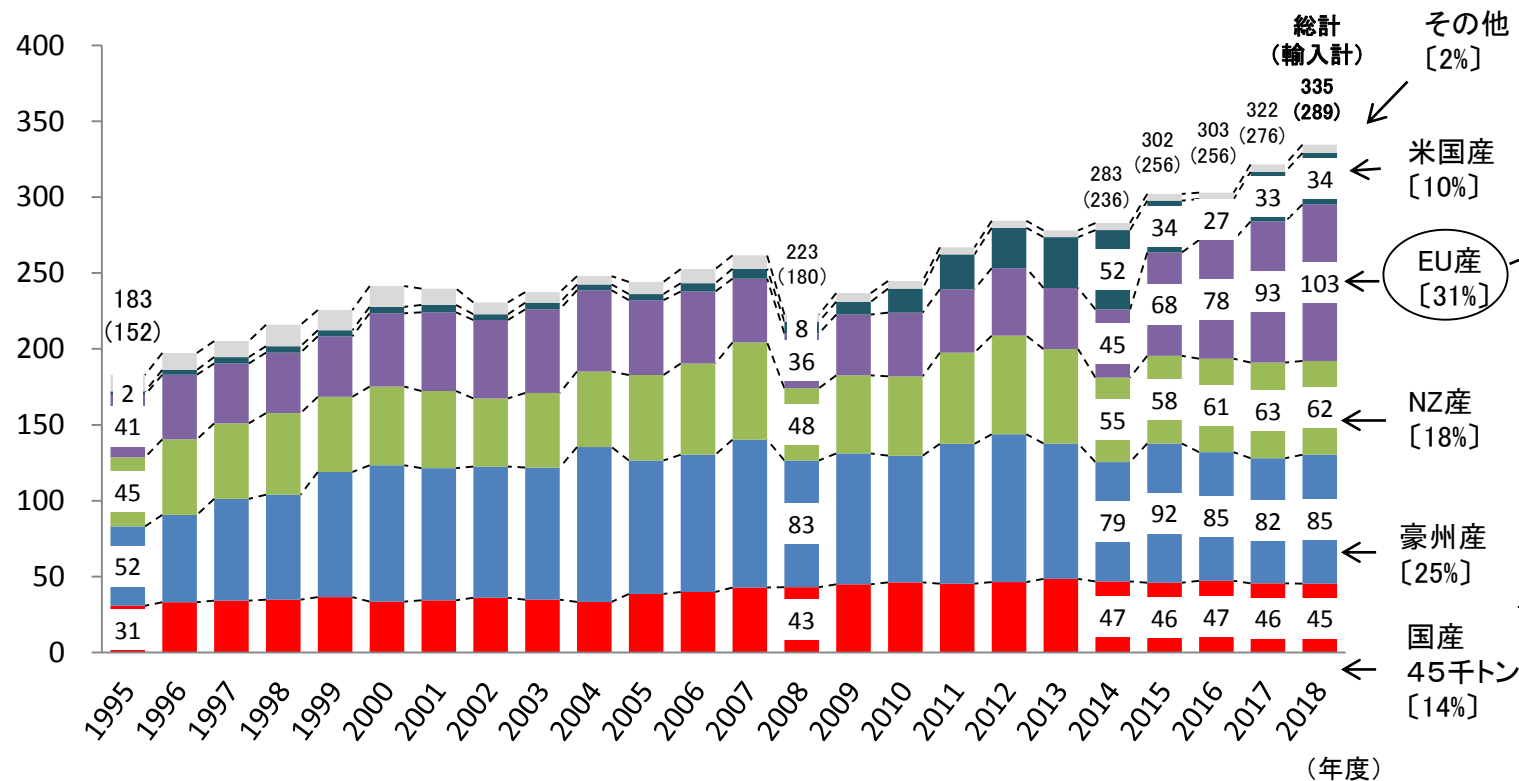
〔ホエイと脱脂粉乳の成分比較〕

	脱脂粉乳	ホエイ	
		ホエイパウダー	WPC34
たんぱく質 含有量	ホエイたんぱく質含有量 34% 〔カゼインたんぱく質(80%) ホエイたんぱく質(20%)〕	ホエイたんぱく質 11-15% (ホエイたんぱく質)	ホエイたんぱく質 34-36% (ホエイたんぱく 質)
色	白色、溶かしても白色	白色、溶かしたら半透明	
風味	乳風味	乳風味だが、脱脂粉乳とは異なる	

我が国のチーズの消費量

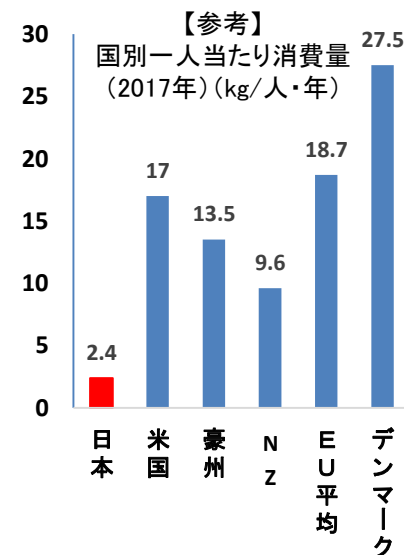
- チーズの輸入量は、景気の落ち込み等により減少した年もあるものの、総じて、右肩上がりで伸びてきている。
- チーズの国内生産量も、おおむね増加傾向で推移。2013年度に過去最高の4万9千トンとなったものの、生乳生産の減少等に伴い、やや減少。
- 我が国のチーズ消費量は、他国の水準と比べれば依然として低い水準にあることから、今後も堅調な伸びが見込まれる。

(千トン)



輸入計
(2018年度)
289千トン(86%)

EU産	103千トン
上位5カ国	
オランダ	30千トン[29%]
デンマーク	19千トン[18%]
ドイツ	18千トン[18%]
フランス	12千トン[11%]
イタリア	11千トン[10%]



資料：農林水産省「チーズの需給表」、財務省「貿易統計」、IDF「世界の酪農状況」

注) 国産は、チーズ需給表上のプロセスチーズ原料用ナチュラルチーズ及び直接消費用ナチュラルチーズの生産量の合計

輸入は、財務省貿易統計のチーズの国別輸入量

鶏 卵

- 鶏卵は、国内生産量約263万トン、輸入量約11万トンであり、国内消費量に占める輸入量の割合は約4%。
- 輸入量の約7割をハムやソーセージのつなぎの原料等として使用される卵白粉が占め(主な輸入先国は、オランダ、イタリア、米国)、残りの約3割を菓子や菓子パン等の原料として使用される全卵及び卵黄の粉卵や液卵等が占めており(主な輸入先国は、米国)、いずれも用途は限定的である。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2018年次)		
2,628千トン (生産量シェア)	茨城県 (9%)	鹿児島県 (7%)	千葉県 (6%)

出典: 鶏卵流通統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2017-18年平均)		
113千トン (輸入量シェア)	米国 (25%)	オランダ (19%)	イタリア (18%)

出典: 貿易統計
注: 輸入量は、殻付き換算ベース

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年次	2014	2015	2016	2017	2018
国内価格	222	228	205	207	180
国際価格	173	202	164	120	138

出典: JA全農たまご(株)(国内価格)、貿易統計(国際価格)
注1: 国内価格は、全農東京M卵卸売価格
注2: 国際価格は、全世界平均CIF価格

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 8.0~21.3%	二次税率 —	—

品目名	関税率	鶏卵輸入量に占める割合 (2017-18年平均)
殻付き卵(生鮮・冷蔵)	17.0%	0.6%
殻付き卵(その他) (ゆで卵等)	21.3%	0.6%
卵黄(乾燥)	18.8%	5.3%
卵黄(その他) (冷凍液卵等)	20%又は48円/kgのうち いずれか高い税率	4.7%
全卵(乾燥)	21.3%	10.3%
全卵(その他) (冷凍液卵等)	21.3%又は51円/kgのうち いずれか高い税率	3.7%
卵白	8.0%	74.8%

採卵鶏の飼養動向

- 飼養戸数は、近年、小規模層を中心に年率4～6%の割合で減少。
- 成鶏めす飼養羽数は減少傾向で推移していたが、平成26年以降は増加傾向で推移。
- 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移しており、大規模化が進展。

(平成)

区 分 / 年	21	23	24	25	26	28	29	30	31
飼養戸数(戸)	3,110	2,930	2,810	2,650	2,560	2,440	2,350	2,200	2,120
(対前年増減率)(%)	(▲5.8)	(▲5.8)	(▲4.1)	(▲5.7)	(▲3.4)	(▲4.7)	(▲3.7)	(▲6.4)	(▲3.6)
うち成鶏めす10万羽以上層(戸)	350	336	327	328	324	347	340	332	329
戸数シェア(%)	(12.4)	(12.5)	(12.8)	(13.5)	(14.0)	(15.7)	(16.1)	(16.7)	(17.1)
成鶏めす飼養羽数(千羽)	139,910	137,352	135,477	133,085	133,506	134,569	136,101	139,036	141,792
(対前年増減率)(%)	(▲1.8)	(▲1.8)	(▲1.4)	(▲1.8)	(0.3)	(0.8)	(1.1)	(2.2)	(2.0)
うち10万羽以上層(千羽)	91,001	90,083	90,314	91,556	93,476	99,395	101,048	104,515	107,734
羽数シェア(%)	(65.2)	(65.7)	(66.8)	(68.8)	(70.0)	(73.9)	(74.3)	(75.2)	(76.0)
一戸当たり平均									
成鶏めす飼養羽数(千羽)	45.0	46.9	48.2	50.2	52.2	55.2	57.9	63.2	66.9

資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

注1:種鶏のみの飼養者を除く。

2:数値は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く数値。

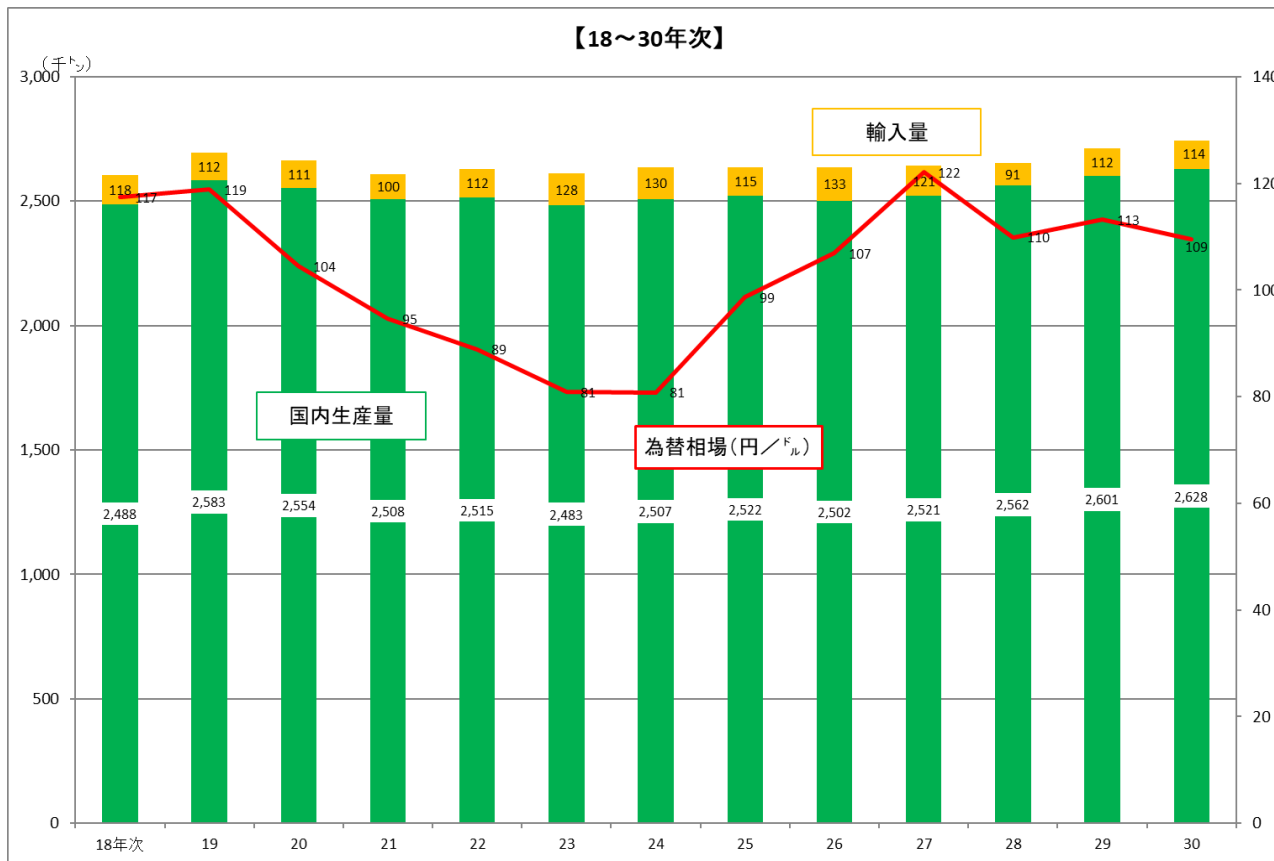
3:H22年及びH27年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

また、H23年及びH28年の()内の数値は、それぞれH21年及びH26年との比較である。

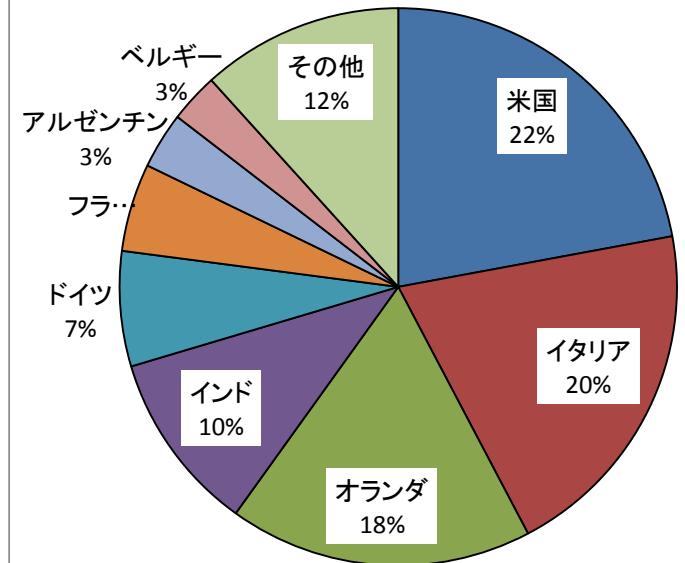
鶏卵の供給量について

- 近年、国内消費量に占める輸入量の割合は5%前後の割合で推移している。
- 輸入の大宗を米国、イタリア、オランダが占め、全輸入量に占める米国の割合は約22%である。
- 米国からの輸入は、その8割が乾燥卵白等の粉卵であり、これらの粉卵は比較的安価な菓子パンやハムやソーセージ等の原料として利用される等、用途は限定的である。

鶏卵の国内生産量及び輸入量の推移



国別輸入割合(平成30年次)



【輸入量: 114千トン】

資料: 鶏卵流通統計(生産量)、貿易統計(輸入量)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(為替相場)

注: 輸入量は殻付換算

鶏卵のタリフライン別輸入実績(2018年次)

■ 2018年次鶏卵タリフライン別輸入実績(輸入量)

HSコード	0407-21-000		0407-90-200		0408-11-000		0408-19-000		0408-91-000		0408-99-000		3502-11-000		3502-19-000		合 計	
税 率	17.0%		21.3%		18.8%		20%又は48円/kg		21.3%		21.3%又は51円/kg		8.0%		8.0%			
品 名	殻付き卵 生鮮・冷蔵・冷凍		殻付き卵 その他		卵 黄 乾 燥		卵 黄 その他		全 卵 乾 燥		全 卵 その他		卵白アルブミン 乾 燥		卵白アルブミン その他			
国 名	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %
米国	21	34.8			4,471	71.1	4,661	97.6	7,035	55.5	4	0.1	8,980	10.8			25,173	22.1
イタリア					24	0.4			1,139	9.0			21,865	26.4			23,027	20.2
オランダ									195	1.5			19,882	24.0			20,077	17.6
インド					1,536	24.4			1,014	8.0			9,399	11.4			11,950	10.5
ドイツ	39	65.2											7,568	9.1			7,607	6.7
フランス													5,817	7.0			5,817	5.1
アルゼンチン					151	2.4			2,424	19.1			1,151	1.4			3,725	3.3
ベルギー													3,257	3.9			3,257	2.9
メキシコ									637	5.0			2,373	2.9			3,011	2.6
ブラジル							91	1.9					771	0.9	2121	100.0	2,983	2.6
中国			512.1	76.5			3	0.1			2,382	52.8					2,897	2.5
タイ											1,487	33.0					1,487	1.3
ポーランド													967	1.2			967	0.8
デンマーク									244	1.9			516	0.6			760	0.7
ベトナム											639	14.2					639	0.6
カナダ													195	0.2			195	0.2
台湾			157	23.5			4	0.1									161	0.1
スウェーデン					56	0.9							66	0.1			122	0.1
リトアニア					48	0.8	20	0.4									68	0.06
香港			0.2	0.03													0.2	0.00
TPP11総計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	637	5.0	639	14.2	2,568	3.1	0	0.0	3,845	3.4
EU総計	39	65.2	0	0.0	128	2.0	20	0.4	1,577	12.4	0	0.0	59,938	72.4	0	0.0	61,702	54.2
総 計	60	100.0	670	100.0	6,286	100.0	4,778	100.0	12,688	100.0	4,512	100.0	82,807	100.0	2,121	100.0	113,922	100.0

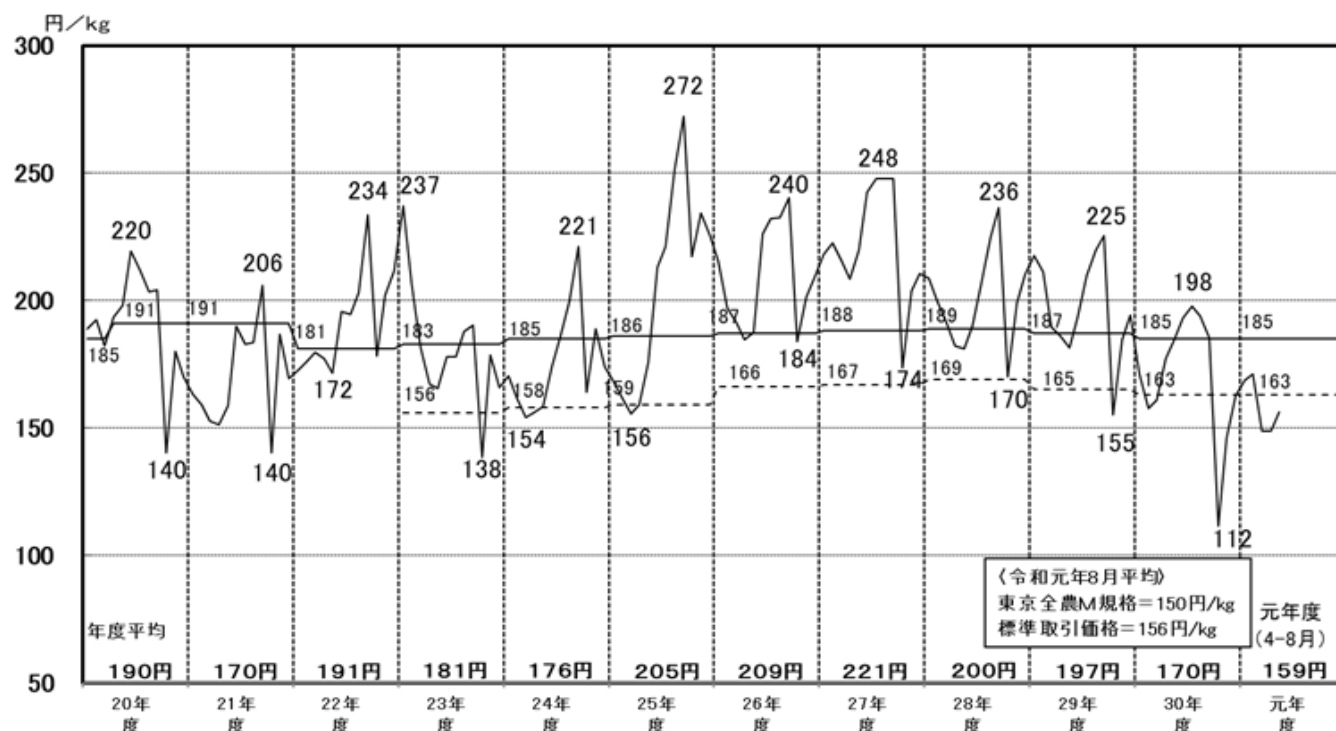
鶏卵の主な用途について

HSコード	関税率	品目名	主な用途	〔 輸入量 米国シェア 〕	CIF価格	イメージ
0407-21-000	17. 0%	殻付き卵(冷蔵・冷凍)	幅広い用途	約0. 06トン (35%)	495円/kg	
0407-90-200	21. 3%	殻付き卵(その他)	ゆで卵、 ピータン等	約0. 7千トン (0%)	364円/kg	
0408-11-000	18. 8%	卵黄(乾燥)	菓子パン・ 菓子等の原料	約6千トン (71%)	275円/kg	
0408-19-000	20% 又は 48円/kg	卵黄(その他) (冷凍液卵等)	マヨネーズ等の 原料	約5千トン (98%)	319円/kg	
0408-91-000	21. 3%	全卵(乾燥)	菓子パン・ 菓子等の原料	約1万3千トン (56%)	129円/kg	
0408-99-000	21. 3% 又は 51円/kg	全卵(その他) (冷凍液卵、 うずら卵水煮等)	菓子パン・ 菓子等の原料、 惣菜等	約5千トン (0. 1%)	421円/kg	
3502-11-000	8. 0%	卵白(乾燥)	ハム・ソーセージ 等の原料	約8万3千トン (11%)	87円/kg	
3502-19-000	8. 0%	卵白(その他) (冷凍液卵等)	練り物等の 原料	約2千トン (0%)	106円/kg	

鶏卵の価格動向

- 鶏卵の卸売価格は、わずかな生産量の変動が大幅な価格変動につながりやすい傾向にあり、季節的な変動のほか5～6年を周期とするエッグサイクルが存在する。
- 29年度は、25年度後半以降の堅調な価格を背景に、生産が拡大したため需給が緩和し、年度後半からは前年度同期を下回って推移した。
- 30年度に入っても、生産が拡大し続けていたため価格が低迷し、4月23日から6月25日までの間、25年7月以来5年ぶりに成鶏更新・空舎延長事業が発動した。さらに、1月初日の標準取引価格(日ごと)は96円と安定基準価格(163円/kg)を大幅に下回ったため、2月1日から3月31日までの間、再び同事業が発動した。平成31年度に入り、安定基準価格を上回っていたが、ゴールデンウィーク明けで消費が弱含みとなったこと等から5月20日から同事業が発動した。その後、生産調整の着実な取組に加え、秋からの需要増加を見込んだ手当買いの進展により価格が上昇し、9月2日に同事業が停止した。

○ 鶏卵卸売価格(標準取引価格)の推移

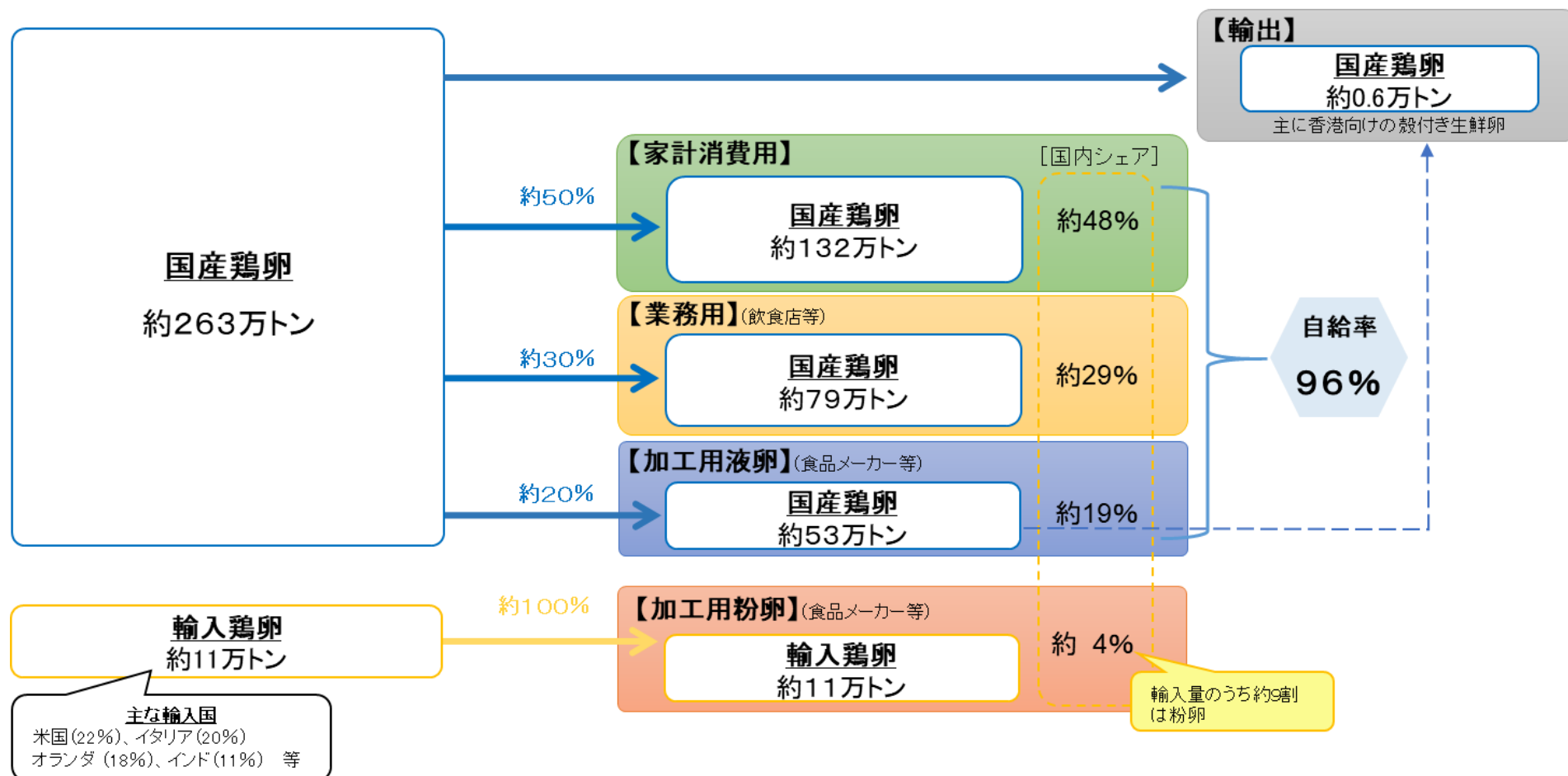


資料: JA全農調べ

注: 標準取引価格は、東京・大阪の規格卵の加重平均である。

鶏卵の流通

- 鶏卵の国内流通量は、約273万トンで、うち国産鶏卵が約263万トン、輸入鶏卵が約11万トン。
- 国産鶏卵は家計消費用と業務・加工用がほぼ1:1の比率で使用されるが、一方で、輸入鶏卵は業務・加工用として利用される。

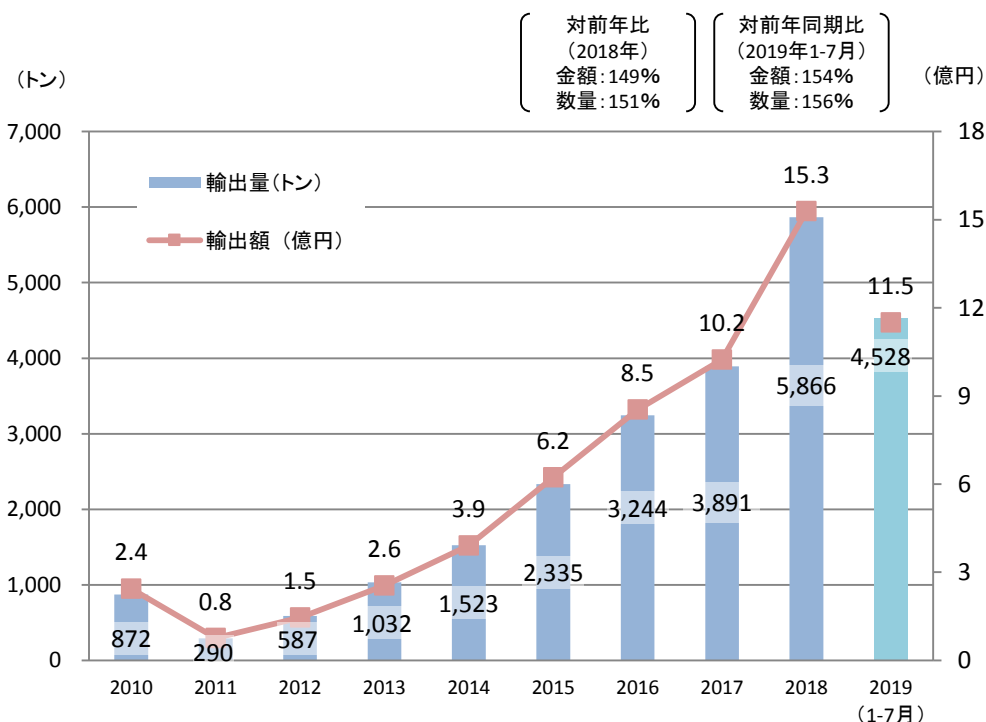


資料: 鶏卵流通統計(生産量)、貿易統計(輸出入量)、食肉鶏卵課調べ(国内シェア)

国産鶏卵の輸出について

- 高級食材としての需要を中心に、殻付き鶏卵の輸出は増加傾向で推移。輸出先は、輸送距離や輸出先国との衛生条件等の制約から、香港を始めとするアジアが中心。
- 2018年10月に米国向け鶏卵輸出が解禁となり、2019年2月からグアム向け輸出が開始。2019年7月までに0.9トンの殻付き卵が輸出。
- 平成31年に輸出額26億円(10,000トン相当)を目標として設定。

日本産殻付き鶏卵の輸出実績



資料: 貿易統計

米国への輸出実績等

(殻付き鶏卵)	衛生条件	関税率	H30年次実績		H31,R1(1-7)実績	
			輸出量 トン	輸出額 百万円	輸出量 トン	輸出額 百万円
米国	あり	0.028US\$/doz	0	0	0.9	0.8
(参考) 香港	あり	0%	5,853	1,518	4,307	1,096
全世界			5,866	1,529	4,528	1,150

30年度の鶏卵生産者経営安定対策について

- 鶏卵価格が低落した場合に価格差補填を行うとともに、更に低落した場合、成鶏の更新に当たって長期の空舎期間を設け、需給改善を推進することにより、鶏卵生産者の経営と鶏卵価格の安定を図る。

1. 鶏卵価格差補填事業

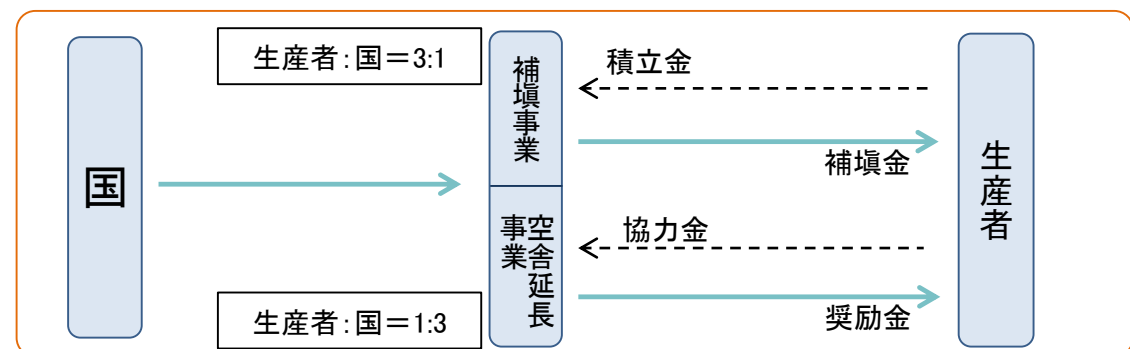
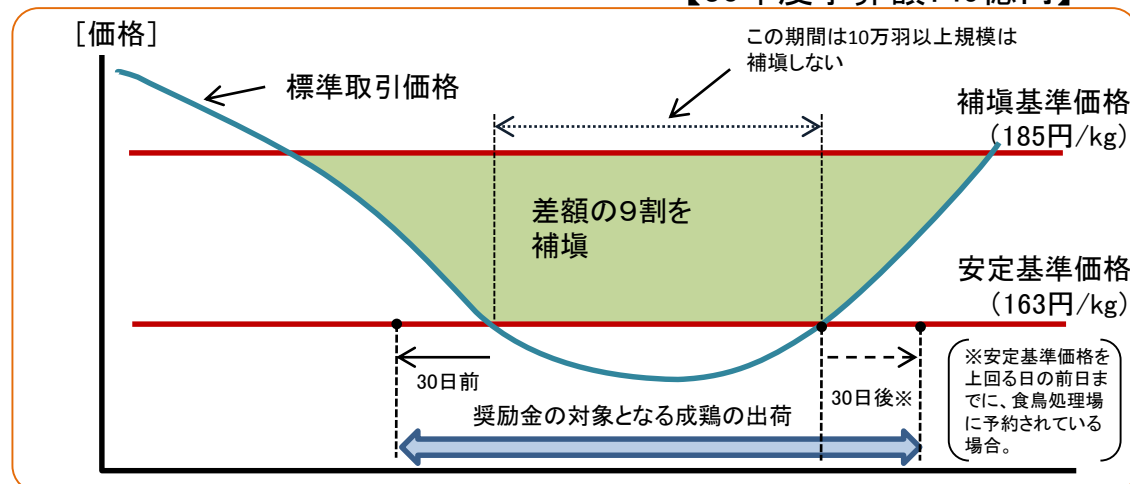
鶏卵の標準取引価格（月毎）が補填基準価格を下回った場合、その差額（補填基準価格と安定基準価格の差額を上限とする。）の9割を補填する。

〔2. の事業への協力金の拠出が要件〕

2. 成鶏更新・空舎延長事業

鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回る日の30日前から、安定基準価格を上回る日の前日までに、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舎期間を設ける場合に奨励金（210円/羽以内。ただし、小規模生産者（10万羽未満）は270円/羽以内）を交付する。

【30年度予算額：49億円】



事業実績額の推移

【単位：百万円】

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業実績額	16,262	787	2,061	4,877	5,859	16,676
(うち国費分)	(4,731)	(198)	(515)	(1,219)	(1,465)	(4,862)

鶏 肉

- 鶏肉は、国内生産量約160万トン、輸入量約57万トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約26%。
- 鶏肉輸入量の9割以上を骨なし鶏肉が占めており（主な輸入先国はブラジル、タイ）、残りを丸どり及び骨付きもも肉が占めている。なお、米国からの輸入は総輸入量の約3%であり、骨付きもも肉が主体。

【生産量】

国内生産量 (2018年)	主な生産地 (出荷羽数ベース:2018年2月1日現在)		
1,600千トン (出荷羽数シェア)	鹿児島県 (20%)	宮崎県 (20%)	岩手県 (16%)

出典:食料需給表、畜産統計

注:国内生産量は、骨付き肉ベース、出荷量シェアはプロイラーのみ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2017-18年平均)		
565千トン (輸入量シェア)	ブラジル (72%)	タイ (24%)	米国 (3%)

出典:貿易統計

注:輸入量は、鶏肉調製品を含まない。

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2014	2015	2016	2017	2018
国内価格	463	496	453	480	454
国際価格	297	299	220	265	234

出典:食鳥市況情報(国内価格)、貿易統計(国際価格)

注1:国内価格は、もも・むね平均卸売価格(東京)

注2:国際価格は、全世界CIF価格

【国境措置】

関税率(〔 〕は従価税換算値)		国境措置の概要
一次税率 8.5~11.9%	二次税率 —	—

品目名	関税率	鶏肉輸入量に 占める割合 (2017-18年)
丸どり	11.9%	2.3%
骨付きもも肉	8.5%	2.9%
その他 (骨なし肉等)	11.9%	94.8%

肉用鶏の飼養動向について

- 飼養戸数は、小規模の飼養者層を中心に減少傾向で推移している。出荷羽数は、増加傾向で推移している。
- 1戸当たり平均の飼養羽数は拡大しており、特に出荷羽数50万羽以上の大規模層のシェアは、戸数、羽数ともに拡大傾向で推移している。

区 分 / 年	21	25	26	28	29	30	31
飼養戸数(戸)	2,392	2,420	2,380	2,360	2,310	2,260	2,250
(対前年増減率)(%)	(▲2.6)	(—)	(▲1.7)	(▲0.8)	(▲2.1)	(▲2.2)	(▲0.4)
飼養羽数(千羽)	107,141	131,624	135,747	134,395	134,923	138,776	138,228
(対前年増減率)(%)	(4.0)	(—)	(3.1)	(▲1.0)	(0.4)	(2.9)	(▲0.4)
出荷戸数(戸)	—	2,440	2,410	2,360	2,320	2,270	2,260
うち50万羽以上層(戸)	—	225	230	266	268	272	282
戸数シェア(%)	—	(9.2)	(9.5)	(11.3)	(11.6)	(12.0)	(12.5)
出荷羽数(千羽)	—	649,778	652,441	667,438	677,713	689,280	695,335
うち50万羽以上層(千羽)	—	270,778	270,971	294,138	296,577	312,229	321,553
羽数シェア(%)	—	(41.7)	(41.5)	(44.1)	(43.8)	(45.3)	(46.2)
一戸当たり平均飼養羽数(千羽)	44.8	54.4	57	56.9	58.4	61.4	61.4
一戸当たり平均出荷羽数(千羽)	—	266.3	270.7	282.8	292.1	303.6	307.7

資料：農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」(各年2月1日現在)

注1：H21年までは畜産物流通統計、H25年以降は畜産統計における調査となっており、H21年以前の数値とは接続しない。

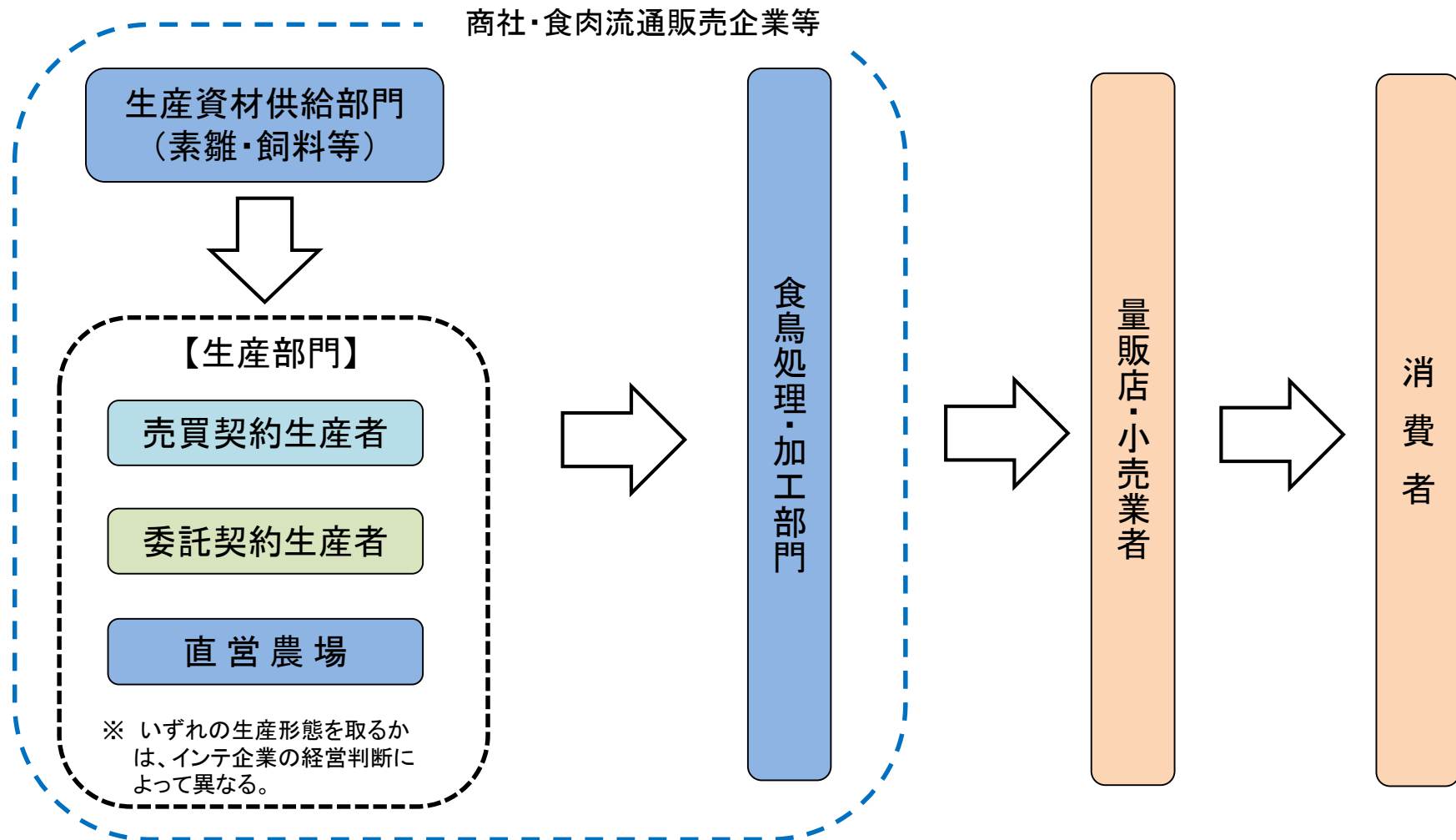
2：H25年の数値は、年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く数値である。

3：H27年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、H28年の()内の数値は、H26年との比較である。

ブロイラー産業のインテグレーション(垂直統合)について

○ インテグレーション(垂直統合)とは、総合商社や食肉流通販売企業、農協等(いわゆるインテ企業)が、素雛、飼料等の生産資材をブロイラー生産農家に供給し、生産したブロイラーの処理・加工・流通・販売までを一貫して行う業態のことであり、現在の鶏肉生産のほとんどがインテグレーション化された生産構造の中で行われている。

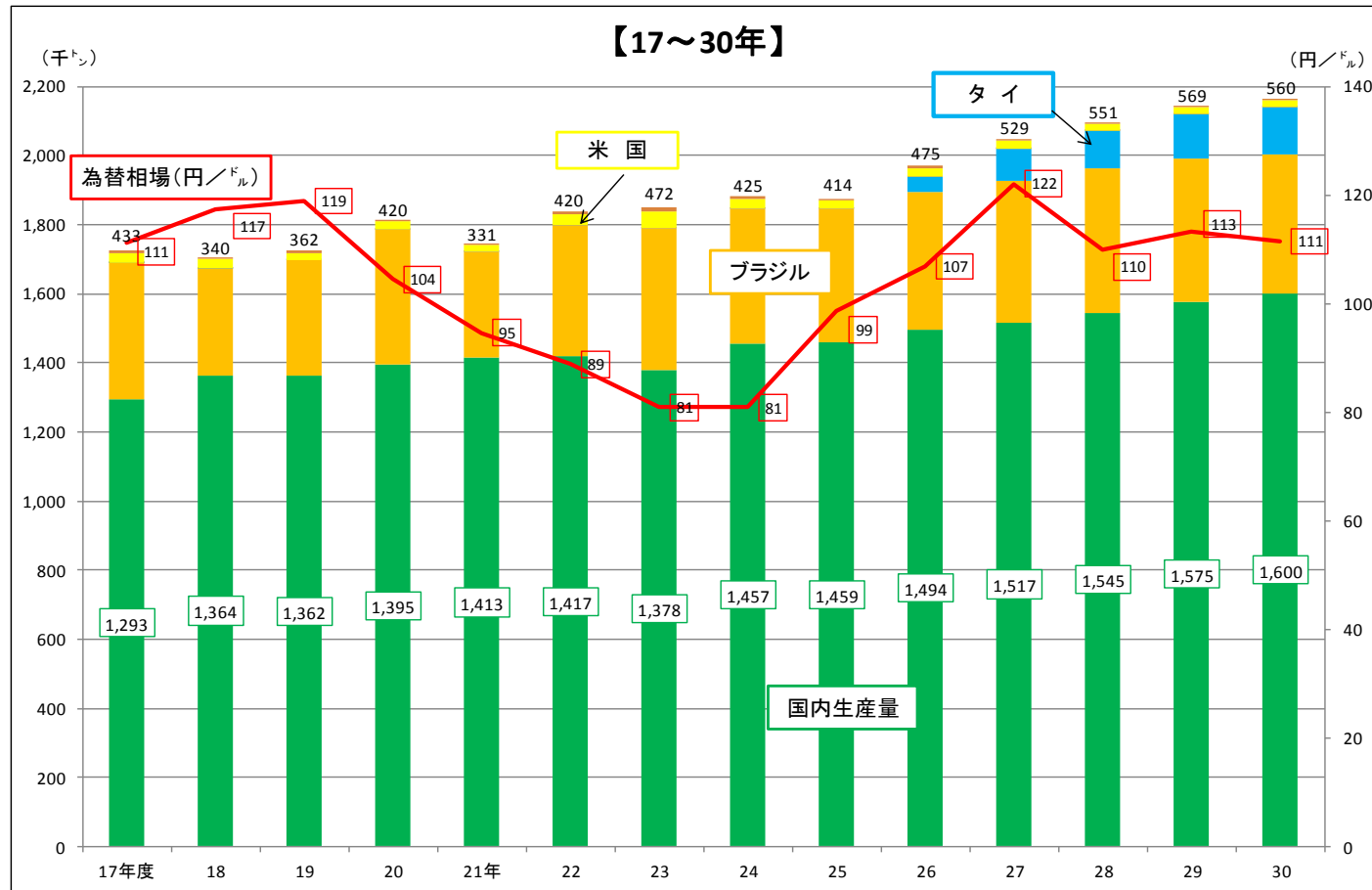
<インテグレーション化の一例>



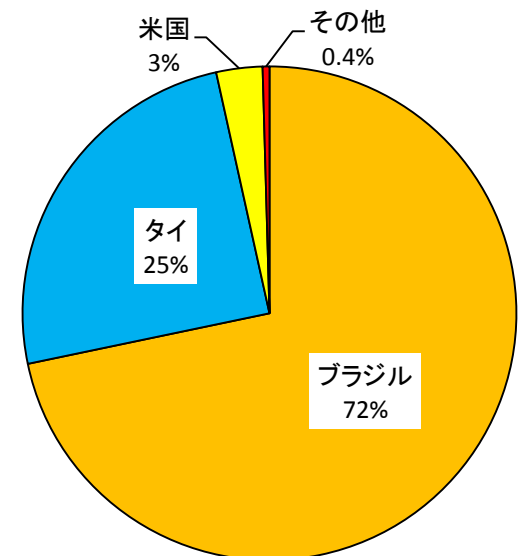
鶏肉の供給量について

- 近年の鶏肉輸入量は約50～60万トンで推移しており、国内供給量に占める輸入量の割合は約26%。
- 輸入の大宗をブラジルが占めている。
- 全鶏肉輸入量に占める米国の割合は約3%である。
- 米国からの輸入は、そのほとんどが冷凍骨付もも肉となっており、ポトフやスープカレー等の具材や年末需要のある骨付きローストチキン等として利用される等、用途は限定的である。

鶏肉の国内生産量及び輸入量の推移



国別輸入割合(平成30年)



【輸入量:560千トン】

資料:食料需給表(生産量)、貿易統計(輸入量)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(為替相場)

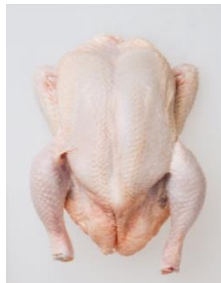
注:平成21年以降は、生産量及び輸入量は年次ベース。なお、輸入量に鶏肉調製品は含まれない。

鶏肉のタリフライン別輸入実績(2018年)

HSコード	0207-11-000		0207-12-000		0207-14-210		0207-14-220		総 計	
税 率	11.9%		11.9%		8.5%		11.9%			
品 名	丸 鶏 生鮮・冷蔵		丸 鶏 冷 凍		骨付きもも肉 冷 凍		その他(骨なし肉等) 冷 凍			
国 名	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %
ブラジル			12,656	91.6	721	4.8	388,473	73.1	401,851	71.7
タイ			93	0.7	659	4.4	138,285	26.0	139,036	24.8
米国			62	0.4	13,436	89.3	3,444	0.6	16,941	3.0
オーストラリア			571	4.1					571	0.1
トルコ			102	0.7	7	0.05	439	0.08	548	0.1
アルゼンチン			212	1.5			273	0.05	486	0.09
ポーランド							236	0.04	236	0.04
チリ							227	0.04	227	0.04
デンマーク					184	1.2			184	0.03
フランス	5	100.0	88	0.6	2	0.01	1	0.0001	96	0.02
スペイン			16	0.1	7	0.05	25	0.005	47	0.008
ハンガリー					20	0.1	19	0.003	39	0.007
ベルギー							24	0.005	24	0.004
中国							20	0.004	20	0.004
カナダ			9	0.06					9	0.002
ニュージーランド			4	0.03	1	0.004	1	0.0002	5	0.001
TPP11総計			583	4.2	1	0.004	228	0.04	812	0.1
EU総計	5	100.0	104	0.8	213	1.4	304	0.06	627	0.1
総 計	5	100.0	13,812	100.0	15,037	100.0	531,466	100.0	560,321	100.0

出典: 貿易統計

輸入鶏肉の主な用途について

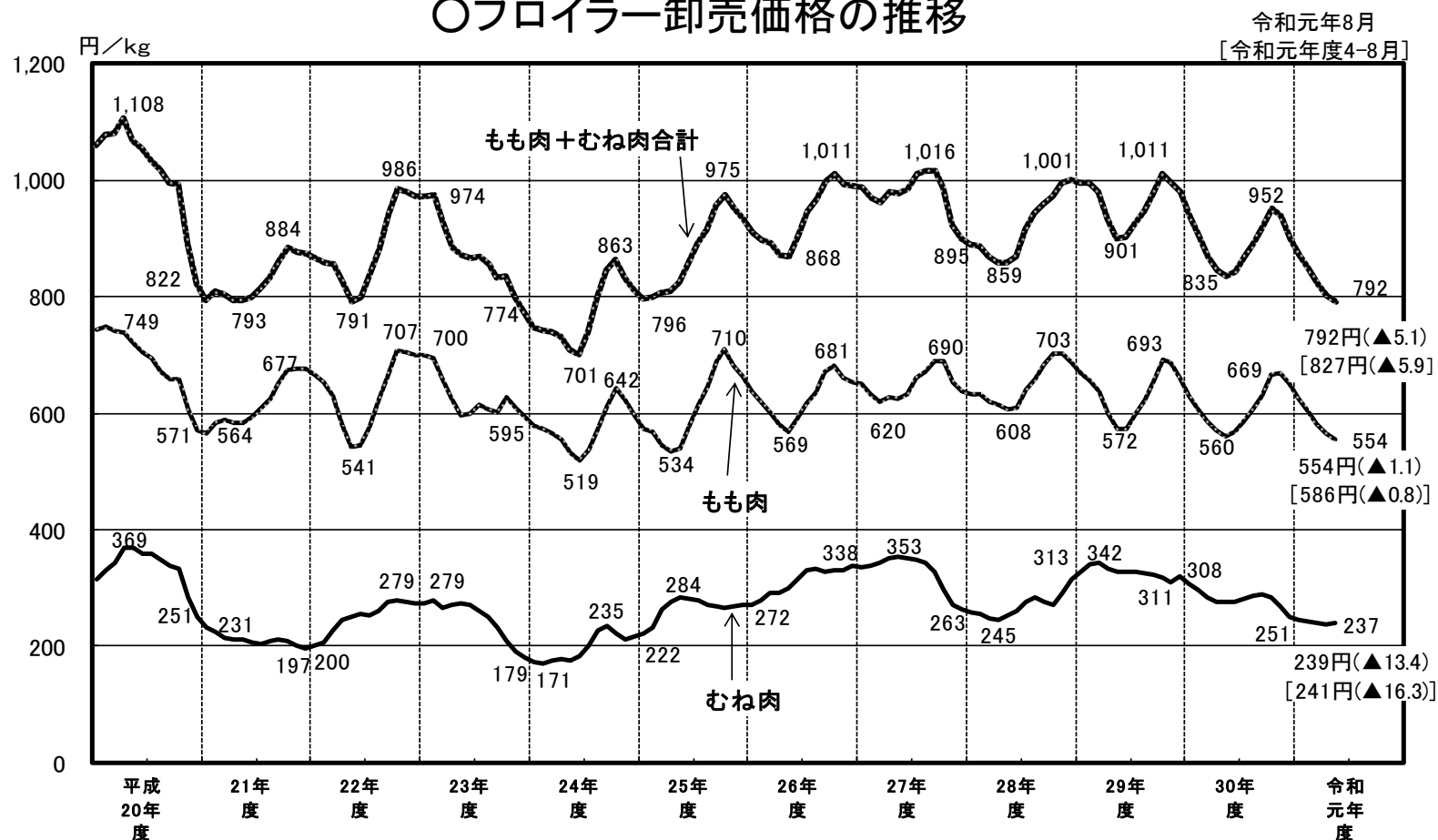
HSコード	関税率	品目名	主な用途	輸入量 米国 シェア	CIF価格	品目イメージ
0207-12-000	11.9%	冷凍丸どり	ローストチキン等 業務・加工用として 丸鶏のまま利用される ことが多い。	約1.4万トン (0.4%)	222円/kg	
0207-14-210	8.5%	冷凍骨付き肉	ローストチキン、 フライドチキン等 業務・加工用として 骨付きも肉のまま 利用されることが多い。	約1.5万トン (89%)	191円/kg	
0207-14-220	11.9%	冷凍骨なし肉	唐揚げ、焼き鳥等 業務・加工用として 利用されることが多い。	約53.1万トン (0.6%)	236円/kg	

資料:「貿易統計」(2018年)

鶏肉の価格動向について

- もも肉価格は、通常、夏場の不需要期に向けて価格が低下し、年末の需要期に向けて価格が上昇する傾向がある。
25年度後半以降、堅調な需要に支えられ、比較的高水準に推移していたが、29年度後半からは、近年の生産拡大等を背景に前年度を下回って推移している。
- むね肉価格は、27年度の秋以降、競合する輸入鶏肉の価格の低下等により低下したが、29年2月以降は、加工向け需要が旺盛であること等から、堅調に推移していたものの、30年度からは近年の生産拡大等を背景に前年度を下回って推移している。

○ブロイラー卸売価格の推移



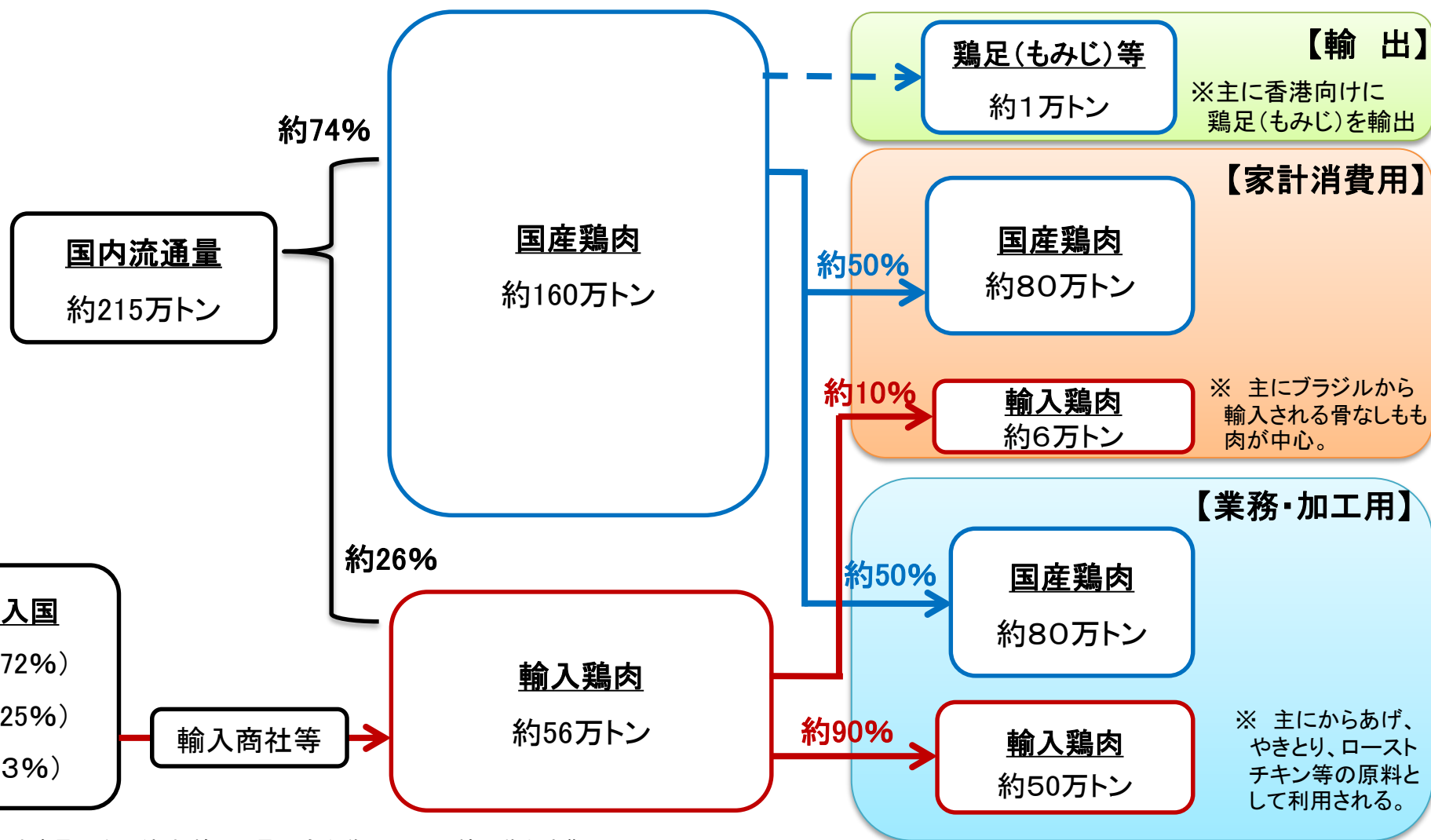
資料：農林水産省「食鳥市況情報（東京）」

注1：もも肉+むね肉合計は、もも肉1kg卸売価格とむね肉1kg卸売価格の単純合計

注2：（ ）内は、対前年同月騰落率

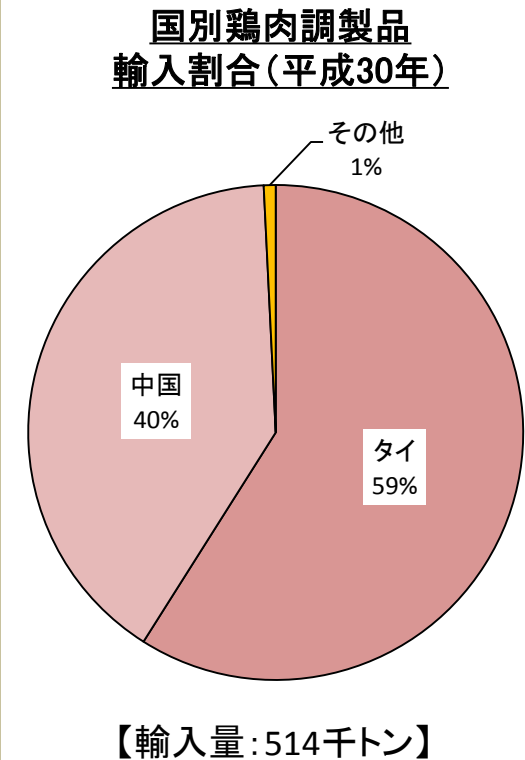
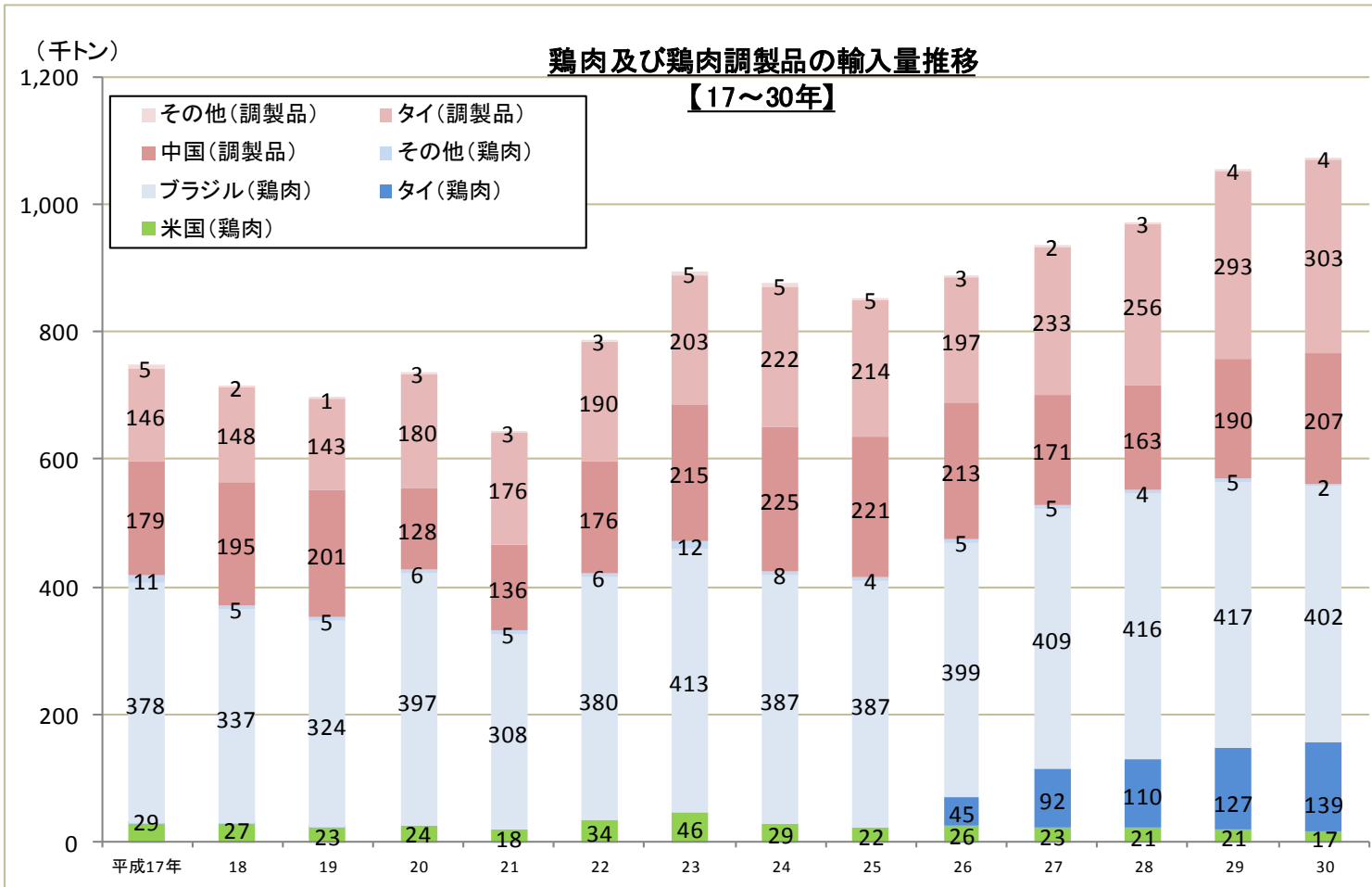
鶏肉の流通

- 鶏肉の国内流通量は、約215万トンで、うち国産鶏肉が約160万トン、輸入鶏肉が約56万トン。
- 国産鶏肉は家計消費と業務・加工用がほぼ1:1の比率で使用されるが、一方で、輸入鶏肉はそのほとんどが業務・加工用として利用される。



鶏肉調製品の輸入量について

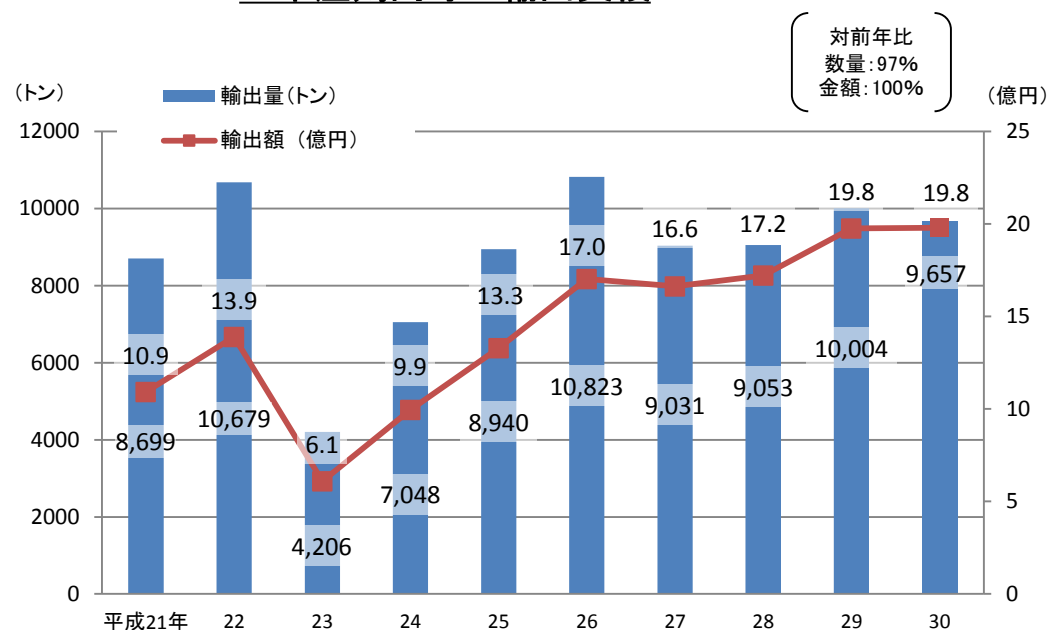
- 鶏肉調製品（からあげ、やきとり等）の輸入量は、平成16年1月のタイ及び中国での鳥インフルエンザの発生以降、増加傾向で推移している。
- タイ及び中国が輸入シェアのほぼ半数ずつを占めており、米国からの輸入はごくわずか。



国産鶏肉等の輸出について

- 国内では需要の少ないもみじ(鶏足)を中心に香港、カンボジア、ベトナムへ輸出。
- 平成23年は、高病原性鳥インフルエンザの発生(平成22年11月)等の影響により輸出量は減少したが、平成24年以降は、増加傾向で推移。
- 平成31年に輸出額35億円(1,4000トン相当)を目標として設定。

日本産鶏肉等の輸出実績



米国への輸出実績等

鶏肉	衛生条件	関税率	H30年実績	
			輸出量 (トン)	輸出額 (百万円)
米国	協議中	0.088USD/kg 0.176USD/kg	-	-
(参考) 香港	あり	0%	5,103 (前年比3.5%減)	1,144 (前年比0.2%増)
全世界			9,657 (前年比8.4%増)	1,980 (前年比17.8%増)

天然はちみつ

- 天然はちみつは、国内生産量が約3千トン、輸入量が約4万トンで、国内消費量に占める輸入の割合は9割を超える。
- 輸入量の約7割を中国からの安価なはちみつが占め、残りの3割をアメリカ大陸やヨーロッパ等からの比較的高価なはちみつが占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2017年)		
2,827トン (生産量シェア)	長野県 (13.0%)	北海道 (11.5%)	熊本県 (7.7%)

出典: 畜産振興課調べ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2017-18年平均)		
43,671トン (輸入量シェア)	中国 (70%)	アルゼンチン (11%)	カナダ (7%)

出典: 貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2014	2015	2016	2017	2018
国内価格	1,000円/kg～3,000円/kg				
国際価格	336	393	354	375	361

出典: 畜産振興課調べ(国内価格)、貿易統計(国際価格)

注1: 国内価格は、(一社)日本養蜂協会からの聞き取り

注2: 国際価格は、全世界CIF価格

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 25.5%	二次税率 —	—

【国別輸入量(2017-18年平均)】

国名	輸入量 (トン)	比率 (%)
中国	30,665	70.2%
アルゼンチン	4,590	10.5%
カナダ	2,994	6.9%
ハンガリー	1,080	2.5%
ルーマニア	957	2.2%
ミャンマー	738	1.7%
ニュージーランド	650	1.5%
メキシコ	509	1.2%
⋮	⋮	⋮
米国	39	0.1%
総 計	43,671	100%

- 蜜蜂の飼育戸数及び蜂群数は、平成22年～27年まで増加傾向で推移。（平成25年以降、届出義務を趣味養蜂に拡大。）

平成28～29年の飼育戸数は、前年と比較し減少したが、平成30年は増加。

- 平成30年の蜜蜂の飼育戸数は9,578戸、蜂群数は213千群。（蜂群数は1月1日時点の調査で、春から増殖するため、夏期には2倍以上になる。）

- 蜜源植物の植栽面積は、近年、各植物とも減少傾向であったが、平成29年は前年と比較し増加。

蜜蜂飼育戸数、蜂群数

（単位：戸、千群、群／戸）

区 分	S60年	H7年	H17年	H22年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
飼育戸数	9,499	7,235	4,790	5,353	5,934	8,312	9,306	9,567	9,452	9,395	9,578
蜂群数	285	214	178	175	184	204	210	213	212	213	213
平均蜂群数	30.0	29.6	34.4	32.8	31.1	24.5	22.5	22.3	22.4	22.8	22.2

出典：畜産振興課調べ

各年とも1月1日現在

注：H25年以降は改正後の養蜂振興法に基づく届出数。

蜜蜂飼育戸数等の上位10県（H30年1月1日現在）

区 分	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
飼育戸数	長野	和歌山	静岡	岐阜	埼玉	岡山	愛知	福島	鹿児島	群馬
戸	582	454	421	403	336	333	328	322	317	315
比率（％）	6.1	4.8	4.4	4.2	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3
蜂群数	長野	沖縄	和歌山	熊本	福岡	鹿児島	岐阜	福島	埼玉	愛媛
千群	15.6	14.7	13.7	11.7	9.1	8.5	7.1	7.0	6.3	5.9
比率（％）	7.3	6.9	6.4	5.5	4.3	4.0	3.3	3.3	2.9	2.8

出典：畜産振興課調べ

蜜源植物の植栽面積

（単位：千ヘクタール）

区 分	S60年	H7年	H17年	H22年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
みかん	143.7	87.6	62.1	52.8	51.3	43.8	39.4	34.9	31.9	35.5
れんげ	21.9	15.7	15.1	13.5	12.8	10.8	8.9	8.8	8.4	6.6
アカシア	7.6	8.5	8	7.1	8.6	7.5	7.9	6.2	5.0	6.7
りんご	45.2	35.5	29.6	6.3	23.4	22.1	21.5	21.2	20.6	22.4
その他	152.3	117.9	75.4	58.8	64.9	63.7	64.6	64.1	54.9	60.8
合 計	370.7	265.2	190.3	138.4	160.9	148.0	142.3	135.2	120.8	132.0

出典：畜産振興課調べ

注：各県が1月から12月に蜜源として利用した植栽面積として把握しているものを集計。

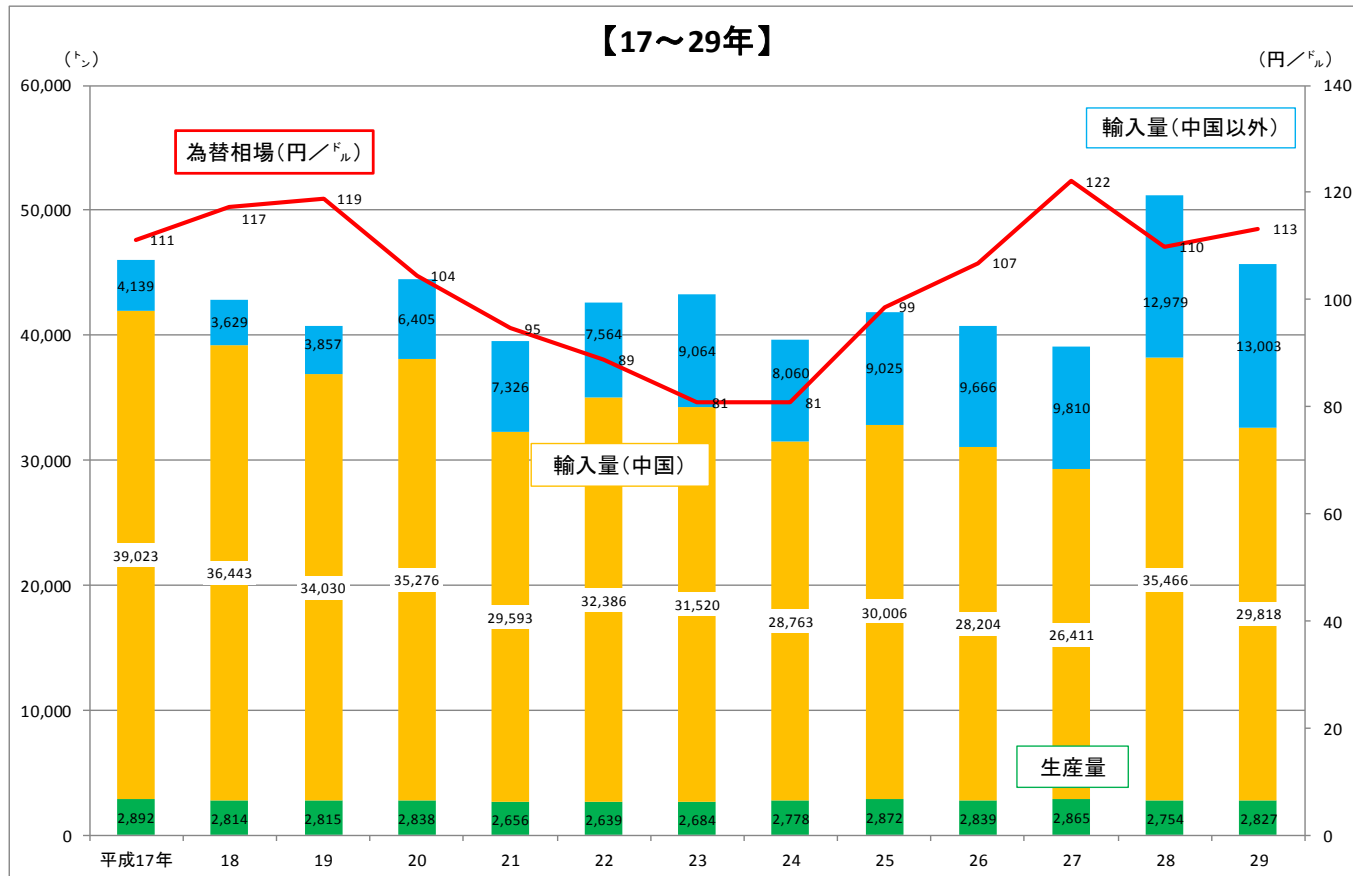
なお、一部の県では調査の中止や再開があるため、数値に連続性がないことに留意。

はちみつの供給量について

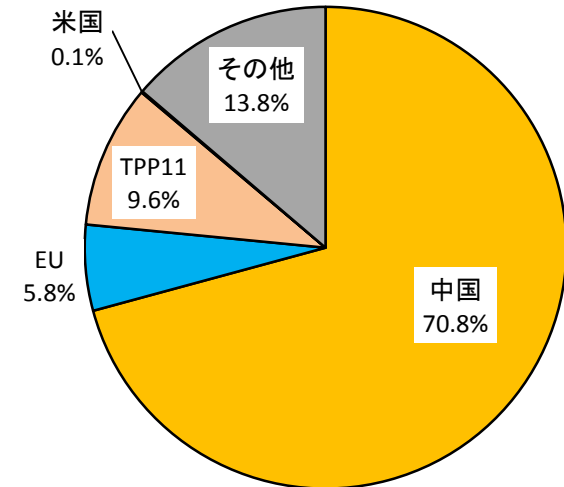
- 近年のはちみつ輸入量は約4万トン前後で推移しており、国内消費量に占める輸入量の割合は9割を超える。
 - 中国からの輸入が大宗を占めているが、近年、全輸入量に占める中国産の割合は減少傾向にあり、中国以外の国からの品質の高いはちみつの輸入量が増加傾向で推移している。
- こうした中で、国産はちみつには一定の需要が存在するため、国内生産量は約3千トンで安定的に推移している。

はちみつの生産量と輸入量の推移

【17～29年】



国別輸入割合(平成30年)



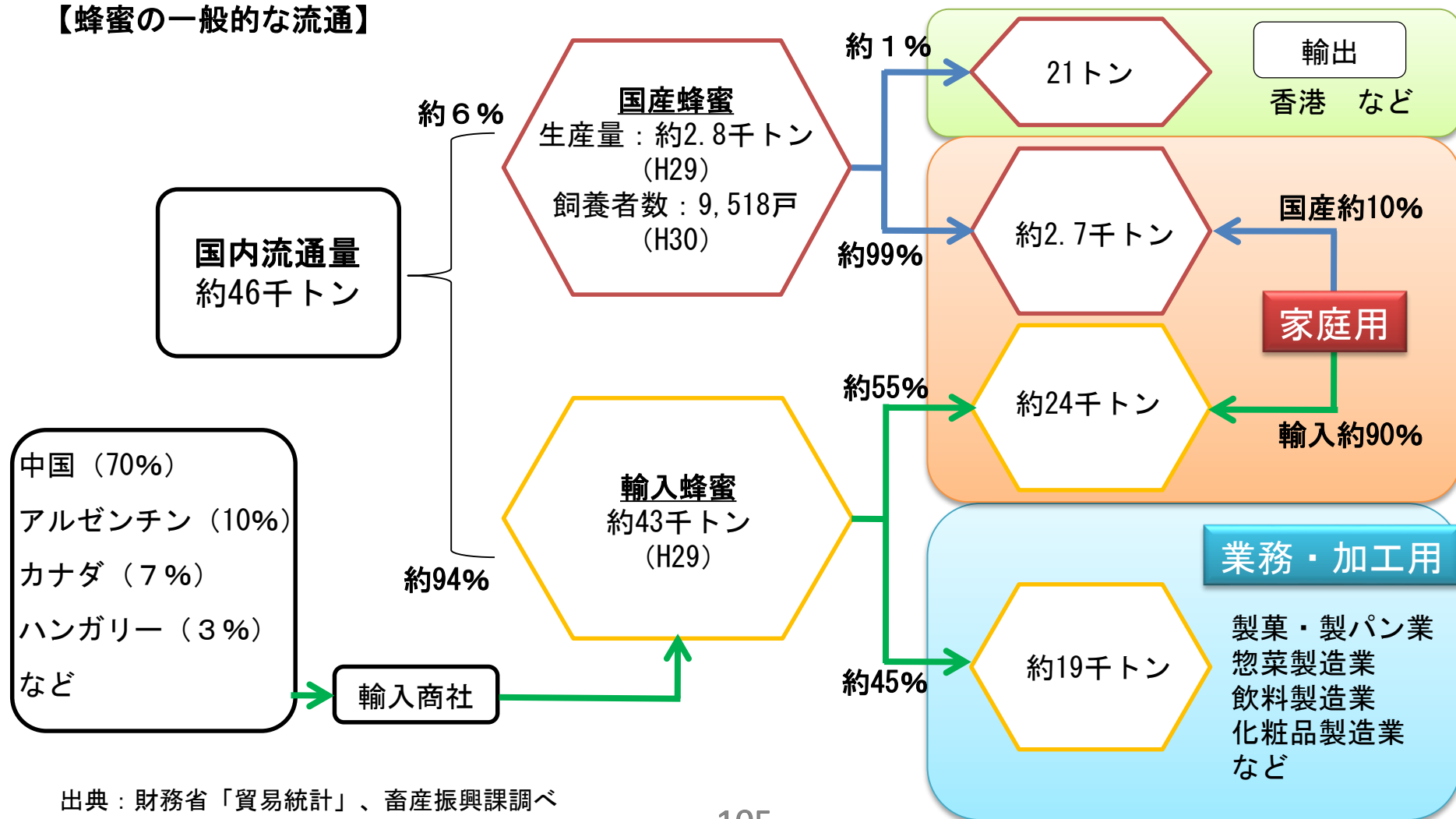
【輸入量: 45千トン】

資料: 畜産振興課調べ(生産量)、貿易統計(輸入量)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(為替相場)

蜂蜜の流通

- 蜂蜜の国内流通量は、約46千トンで、うち国産が約2.8千トン、輸入が約43千トン。輸入はちみつの70%は中国産。
- 国産蜂蜜のほぼ全てが家庭用仕向け。輸入蜂蜜は約55%が家庭用、約45%が業務・加工用仕向け（製菓・製パン、化粧品等）。

【蜂蜜の一般的な流通】



出典：財務省「貿易統計」、畜産振興課調べ

蜂蜜の種類、色、価格

- 蜂蜜の種類は、蜜源の花により分類され、アカシアの花の蜜からはアカシア蜜、レンゲの花の蜜からはレンゲ蜜が取れる。
- 蜂蜜の色は、蜜源の花の種類によって淡黄色から黒褐色まで様々。
- 価格については、国産、輸入では生産コストの違いにより、中国、東南アジア産蜂蜜と国産には相当程度の価格差が存在。

種類・色



価 格

・ 国産蜂蜜卸売価格

1,300円/kg ～ 3,000円/kg

出典：一般社団法人日本養蜂協会からの聞き取り

・ 外国産蜂蜜価格

平成30年	数量(t)	輸入額(千円)	CIF価格 (円/kg)	課税後 (円/kg)
合 計	44,521	16,065,641	361	453
中国	31,512	8,051,700	256	321
アルゼンチン	4,791	1,628,552	340	427
カナダ	2,791	1,105,815	396	497
ルーマニア	980	617,970	631	792
ハンガリー	958	628,159	656	823
ミャンマー	844	179,282	212	266
ニュージーランド	622	2,558,130	4,110	5,158
メキシコ	573	271,316	474	595
米国	40	43,061	1,087	1,364

出典：財務省「貿易統計」

注：天然蜂蜜の関税率は25.5%

加工食品について

○ 米国の主な農産品輸出をみると、上位50品目中7品目が、チョコレート製品、清涼飲料水等の加工食品となっている。

米国の主な農産品の対世界輸出実績(2016年)
(上位50品目中の加工食品)

順位	品目	主な品目の 我が国の関税率	輸出額 (億円) (ドル/円=108)	シェア (%)
14	ペーストリー	25.5% (ペーストリー(加糖))	1.97	1.7
16	チョコレート製品	10%	1.74	1.5
22	清涼飲料水	13.4% (その他のアルコール を含有しない飲料)	1.38	1.2
34	大豆油	10.9%(粗油)	0.89	0.7
39	コーヒー(炒った もの)	23.8%~29.8%又は23 円/kgの高い方	0.80	0.7
40	朝食用シリアル	11.5%	0.76	0.6
48	砂糖菓子	25%	0.60	0.5

米国からの主な農林水産品の輸入実績(2018年)
(上位50品目中の加工食品)

順位	品目	主な品目の 関税率	輸入金額 (億円)	輸入量
25	植物性精油	10.9円/kg又は 13.2%	75	1,465トン
32	鉱水・炭酸水	3%	57	17.9万KL
38	ワッフル・パイ・ケーキ	18%	36	9,823トン
39	チョコレート菓子	10%	35	2,899トン
45	コーヒー(炒ったもの)	12%	26	2,078トン
49	スパゲッティ	30円/kg	24	15,663トン

出典:財務省「日本貿易統計」